

5. 地区別カルテ

都市計画マスタープランの策定にあたり、地域の成り立ちや現況を把握し、よりの確な計画とするため、15地区別のカルテとして情報を整理しました。

▼カルテの構成

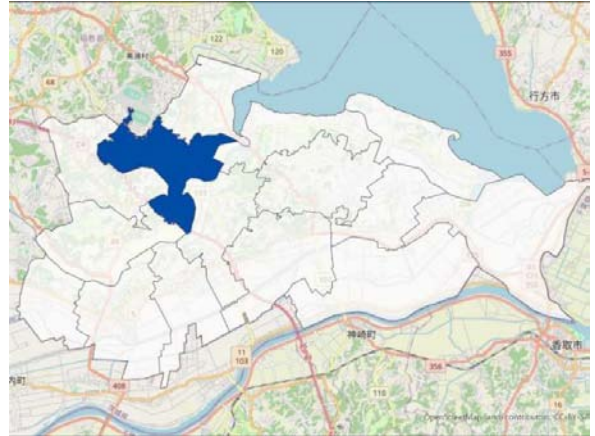
作成単位（15地区）	江戸崎、君賀、沼里、鳩崎、高田、根本、柴崎、太田、古渡、浮島、阿波、十余島、本新島、伊崎、大須賀
掲載内容	沿革、人口の変化、従業・通学地、年度・用途別新築状況と空き家状況、産業分類別従業者割合と土地利用分類

江戸崎地区カルテ

沿革

江戸崎町は昔、常陸国信太郡に属し、「エノサキツ」と呼ばれた後、「榎浦津」と呼ばれたこともあり、いつから「江戸崎」になったのかは不明。1590(天正18)年の文書に江戸崎とあるので、それ以前からの呼び名であると思われる。

字城山には江戸崎城址があるが、弘安年間(1278～1288年)に土岐師親が信太庄の地頭になり、その孫である土岐景秀が築いたものである。土岐氏第九代の土岐治綱の時代、1590(天正18)年に佐竹氏の家臣である芦名盛重と戦って敗れ、江戸崎城は芦名氏の居城になった。しかし徳川氏の時代になると佐竹氏は秋田に国替えとなり、芦名氏もともに移ったため、廃墟となった。



本町は交通の利便性が高く、龍ヶ崎町、土浦町、神崎町に至る県道などがいずれも本町に集中していて交通利便性が高い地域であった。地区内には県立農学校(1907(明治40)年創立、1913(大正2)年に県立化)、尋常高等小学校(1873(明治6)年瑞祥院を仮校舎として設立)があったほか、土浦五十銀行江戸崎支店(1897(明治30)年開店、県支金庫事務も取り扱い)、株式会社三協銀行江戸崎支店(本町金融界を主導)、東郷精米工場(煙草元買捌人である東郷伊助氏の経営)など力のある諸会社も存在した。

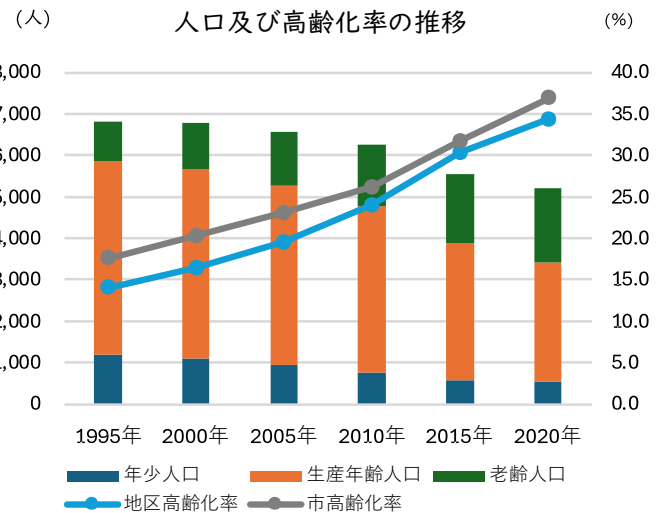
「江戸崎八景」と呼ばれる名勝があり、「吹上の秋月」、「江崎山の晩鐘」、「洲崎の晴嵐」、「医王山の暮雪」、「浜河岸の帰帆」、「羅漢山の夕照」、「高田の落雁」、「引船の夜の雨」はいずれも景勝地とされた。

出典：いばらき新聞龍ヶ崎出張所「稲敷郡志」を基に作成

人口の変化

本地区の2020(令和2)年時点の人口は5,283人であり、稲敷市内15地区では最も人口が多い。65歳以上の人口が占める割合(高齢化率)は34.4%になっており、市内15地区では3番目に低い数値である。

	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年
年少人口	1,197	1,081	929	749	581	540
生産年齢人口	4,655	4,587	4,348	4,014	3,288	2,868
高齢人口	961	1,113	1,286	1,500	1,689	1,787
地区高齢化率	14.11	16.41	19.59	23.95	30.39	34.40
市高齢化率	17.66	20.37	23.14	26.17	31.72	36.95

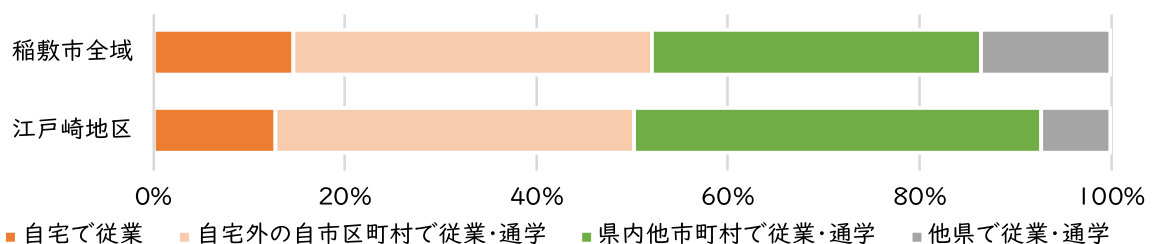


出典：総務省「国勢調査結果」(1995(平成7)年～2020(令和2)年)を基に作成

従業・通学地

ほぼ半数が市外へ従業・通学している状況にある。県内他市町村で従業・通学している割合は、市全域と比べて高い。

従業・通学地別人口割合



出典：総務省「令和2年国勢調査結果」を基に作成

年度・用途別新築状況と空き家状況

主に住宅系の新築が多く、新築数の推移は比較的安定している。

2022(令和4)年時点の空き家数は316件で、住宅数に対する空き家率は10%を超えている。

分類	H27	H28	H29	H30	R1	合計
年度合計	21	14	22	13	13	83
住宅系	16	13	18	13	11	71
商業系	4	0	3	0	1	8
工業系	1	1	0	0	0	2
その他	0	0	1	0	1	2

出典：稲敷市都市計画基礎調査(2022(令和4)年)を基に作成

空き家数	316件
住宅数	2,658件
空き家率	11.89%

出典：稲敷市空家実態調査(2023(令和5)年)を基に作成

産業分類別従業者割合と土地利用分類

本地区の居住者について産業分類別で見ると、「製造業」が最も多く全体の約2割を占めている。

土地利用では田・畑が3割以上を占めるが、本地区内の農業従業者は5%未満となっている。

土地利用分類	面積(ha)	割合(%)
田	317.92	28.52
畑	86.68	7.78
山林	191.25	17.16
原野・荒野・牧野	85.08	7.63
水面	26.16	2.35
その他(海浜等)	0	0
住宅用地	117.75	10.56
併用住宅用地	15.77	1.41
商業用地	23.67	2.12
工業用地	24.82	2.23
運輸施設用地	5.15	0.46
農林漁業施設用地	18.13	1.63
公共用地	9.29	0.83
文教厚生用地	28.88	2.59
公園・緑地・公共空地等	2.47	0.22
ゴルフ場	3.71	0.33
太陽光発電施設	38.23	3.43
その他の空地	44.7	4.01
防衛用地	0	0
道路用地	71.9	6.45
鉄道用地	0	0
駐車場用地	3.2	0.29

出典：稲敷市都市計画基礎調査(2022(令和4)年)を基に作成



出典：総務省「令和2年国勢調査結果」を基に作成

備考) 本カルテは大字「江戸崎」、「犬塚」、「稲波」を江戸崎地区とし、地区の状況について、国勢調査結果や国土数値情報、都市計画基礎調査等のGISデータを用いて分析したものです。

君賀地区カルテ

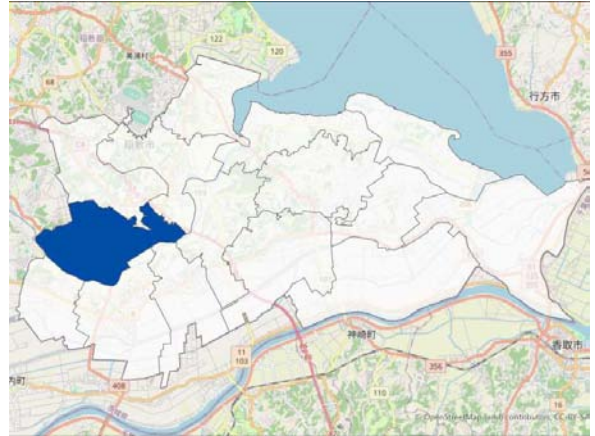
沿革

君賀村は村田、羽賀、松山、下君山、上君山の5大字からなる。1889(明治22)年の市町村制施行に際してひとつの村となり、君山と羽賀から一文字ずつ取って君賀村という名称になった。

中央部一帯に丘陵が広がり、東南部は小野川の流域に沿って田野がひろがって肥沃な土地であった。そのため村民の多くは農業を営み、米や麦、大豆、菜種を主とするほか、豊富な山林を活かして薪炭材木なども生産していた。村民は一般に農業を好み、質朴醇良にして時勢に染まらない素質がある。

本村は龍ヶ崎町から江戸崎町に通ずる県道が通り、小野川の沿岸もあったため水陸ともに交通の便がよい地域であった。小野川は筑波郡小野川村から本村の上下君山、松山、羽賀、村田の各地を流れ、江戸崎を経て霞ヶ浦に注ぐ。羽賀浦は昔の榎ノ浦の一部で楓湖といい、高瀬船や発動機船で東京、土浦、銚子、佐原を経て各地に貨物を輸送するのに重要な湖であった。

役場や駐在所は本村の中央部である松山にあり、尋常小学校は下君山と羽賀に1校ずつあった。農学校および高等小学校は江戸崎町と合同であった。

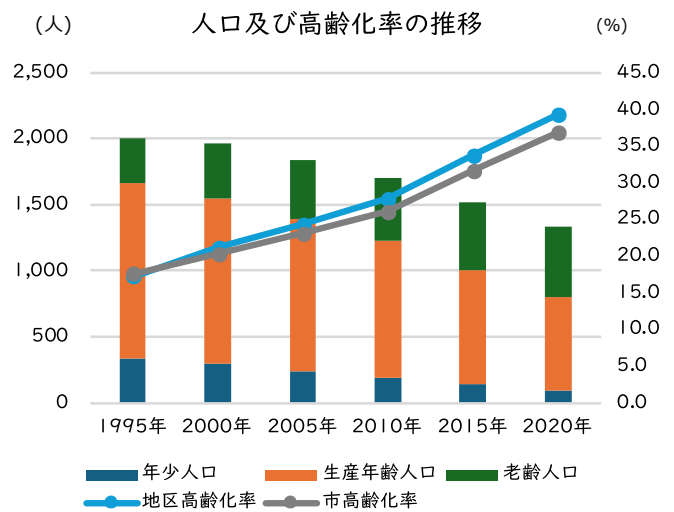


出典：いばらき新聞龍ヶ崎出張所「稲敷郡志」を基に作成

人口の変化

本地区の2020(令和2)年時点の人口は1,330人であり、稲敷市内15地区では最も人口が少ない。65歳以上の人口が占める割合(高齢化率)は39.47%になっており、市内15地区では6番目に高い数値である。

	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年
年少人口	338	293	241	193	136	92
生産年齢人口	1,323	1,251	1,150	1,037	871	713
高齢人口	348	417	450	474	513	525
地区高齢化率	17.32	21.26	24.44	27.82	33.75	39.47
市高齢化率	17.66	20.37	23.14	26.17	31.72	36.95

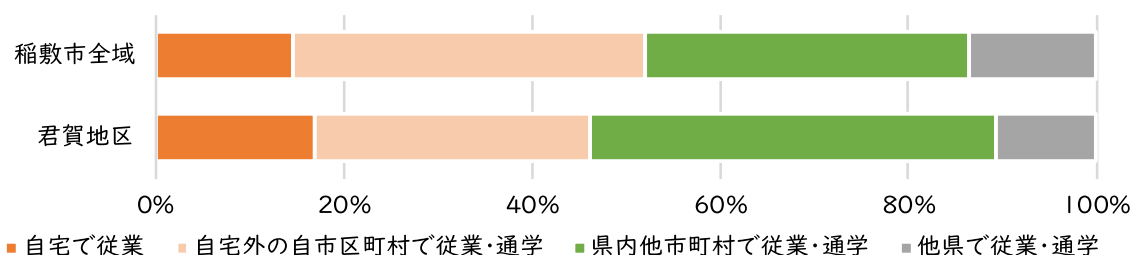


出典：総務省「国勢調査結果」(1995(平成7)年～2020(令和2)年)を基に作成

従業・通学地

半数以上が市外へ従業・通学している状況にある。県内他市町村で従業・通学している割合は、市全域と比べて高い。

従業・通学地別人口割合



出典：総務省「令和2年国勢調査結果」を基に作成

年度・用途別新築状況と空き家状況

主に住宅系と工業系の新築が多く、工業系の新築数は減少傾向にあるが住宅系は比較的安定している。
2022(令和4)年時点の空き家数は49件で、住宅数に対する空き家率は7%ほどである。

分類	H27	H28	H29	H30	R1	合計
年度合計	1	2	6	4	3	16
住宅系	1	0	2	3	2	8
商業系	0	0	1	0	0	1
工業系	0	2	3	1	1	7
その他	0	0	0	0	0	0

出典：稲敷市都市計画基礎調査(2022(令和4)年)を基に作成

空き家数	49件
住宅数	662件
空き家率	7.40%

出典：稲敷市空家実態調査
(2023(令和5)年)を基に作成

産業分類別従業者割合と土地利用分類

本地区の居住者について産業分類別で見ると、「製造業」が最も多く全体の約2割を占めている。
土地利用では田・畑が3割以上を占め、農業従業者も稲敷市全体に比べて高い割合となっている。

土地利用分類	面積(ha)	割合(%)
田	306.21	25.86
畑	95.11	8.03
山林	264.57	22.35
原野・荒野・牧野	117.89	9.96
水面	10.03	0.85
その他(海浜等)	0	0
住宅用地	53.54	4.52
併用住宅用地	3.7	0.31
商業用地	21.17	1.79
工業用地	31.6	2.67
運輸施設用地	6.59	0.56
農林漁業施設用地	17.52	1.48
公共用地	1.42	0.12
文教厚生用地	3.67	0.31
公園・緑地・公共空地等	1.15	0.1
ゴルフ場	128.94	10.89
太陽光発電施設	23.26	1.96
その他の空地	45.28	3.82
防衛用地	0	0
道路用地	52.03	4.39
鉄道用地	0	0
駐車場用地	0.25	0.02

出典：稲敷市都市計画基礎調査(2022(令和4)年)を基に作成

産業分類別従業者割合



出典：総務省「令和2年国勢調査結果」を基に作成

備考) 本カルテは大字「上君山」「下君山」「松山」「羽賀」「村田」「江戸崎みらい」を君賀地区とし、地区の状況について、国勢調査結果や国土数値情報、都市計画基礎調査等のGISデータを用いて分析したものです。

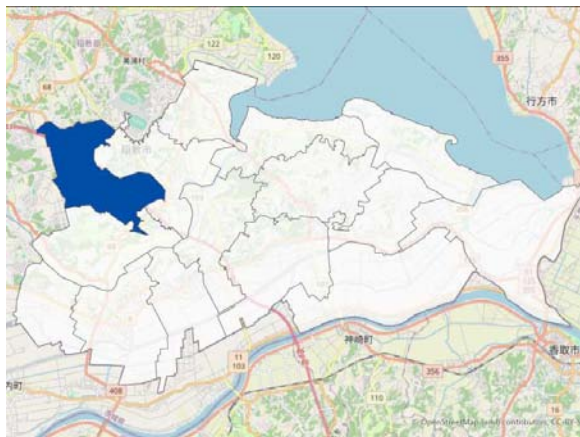
沼里地区カルテ

沿革

大昔は土岐氏の領地で、芦名盛重の領地となる徳川時代には久世大和守の所領となった。蒲ヶ山、沼田、時崎、小羽賀、月出里(すだち)の5つの大字があり、1871(明治4)年には宮谷県、1872(明治5)年2月には新治県、1875(明治8)年10月には茨城県管轄へと移り変わる。1889(明治22)年4月の市町村制によって沼里村となった。

本村は東西に向かって弓形に約二里(約8km)ほど、南北に約一里(約4km)の長さで、地形は概ね平坦であった。清水川が細流村の中間を貫通して東に流れ、小野川に注ぐ両側はほとんど水田となっていた。その周りには里道が通り、里道沿いに建つ民家の背面には、山林畑地が散在する丘陵が見えた。里道は村の中央を一直線に走り、江戸崎を經由して県道銚子街道の北部を貫通するため村の交通の要所であったが、地質が悪く、冬季は通行が困難になっていた。

役場と駐在所は時崎にあり、尋常小学校は蒲ヶ山と沼田にあった。また各地に寺社仏閣があり、大字沼田鹿島にあった鹿島神社では、毎年9月21日に例祭が行われていた。

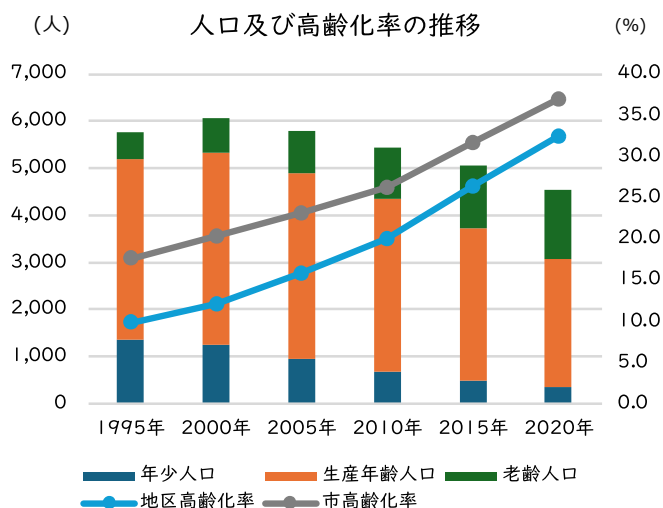


出典：いばらき新聞龍ヶ崎出張所「稲敷郡志」を基に作成

人口の変化

本地区の2020(令和2)年時点の人口は4,536人であり、稲敷市内15地区では2番目に人口が多い。65歳以上の人口が占める割合(高齢化率)は32.52%になっており、市内15地区では最も低い数値である。

	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年
年少人口	1,352	1,248	954	684	494	346
生産年齢人口	3,838	4,087	3,923	3,653	3,221	2,715
高齢人口	569	734	922	1,085	1,334	1,475
地区高齢化率	9.88	12.09	15.90	20.01	26.42	32.52
市高齢化率	17.66	20.37	23.14	26.17	31.72	36.95

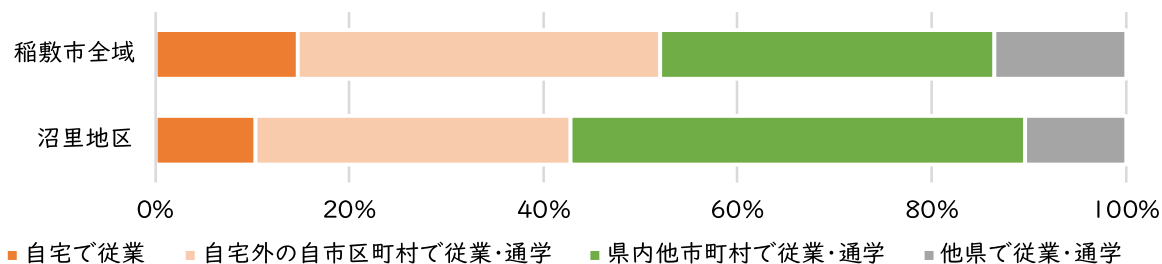


出典：総務省「国勢調査結果」(1995(平成7)年～2020(令和2)年)を基に作成

従業・通学地

半数以上が市外で従業・通学している状況にある。県内他市町村で従業・通学している割合は、市全域と比べて高い。

従業・通学地別人口割合



出典：総務省「令和2年国勢調査結果」を基に作成

年度・用途別新築状況と空き家状況

主に住宅系の新築が多いが、新築数は比較的原書傾向にある。

2022(令和4)年時点の空き家数は255件で、住宅数に対する空き家率は10%を超えている。

分類	H27	H28	H29	H30	RI	合計
年度合計	4	6	6	3	3	22
住宅系	4	6	5	3	2	20
商業系	0	0	1	0	0	1
工業系	0	0	0	0	1	1
その他	0	0	0	0	0	0

出典：稲敷市都市計画基礎調査(2022(令和4)年)を基に作成

空き家数	255件
住宅数	2,407件
空き家率	10.59%

出典：稲敷市空家実態調査(2023(令和5)年)を基に作成

産業分類別従業者割合と土地利用分類

本地区の居住者について産業分類別で見ると、「製造業」が最も多く全体の2割以上を占めている。

土地利用では山林が3割以上を占め、道路用地の割合も比較的多い。

土地利用分類	面積(ha)	割合(%)
田	130.19	11.7
畑	192.34	17.29
山林	355.85	31.99
原野・荒野・牧野	96.98	8.72
水面	2.68	0.24
その他(海浜等)	0	0
住宅用地	98.57	8.86
併用住宅用地	4.47	0.4
商業用地	2.65	0.24
工業用地	6.64	0.6
運輸施設用地	7.39	0.66
農林漁業施設用地	19.11	1.72
公共用地	1.07	0.1
文教厚生用地	6.87	0.62
公園・緑地・公共空地等	3.37	0.3
ゴルフ場	0	0
太陽光発電施設	29.6	2.66
その他の空地	62.84	5.65
防衛用地	0	0
道路用地	90.57	8.14
鉄道用地	0	0
駐車場用地	1.13	0.1

出典：稲敷市都市計画基礎調査(2022(令和4)年)を基に作成



出典：総務省「令和2年国勢調査結果」を基に作成

備考) 本カルテは大字「沼田」「小羽賀」「時崎」「蒲ヶ山」「月出里」を沼里地区とし、地区の状況について、国勢調査結果や国土数値情報、都市計画基礎調査等のGISデータを用いて分析したものです。

鳩崎地区カルテ

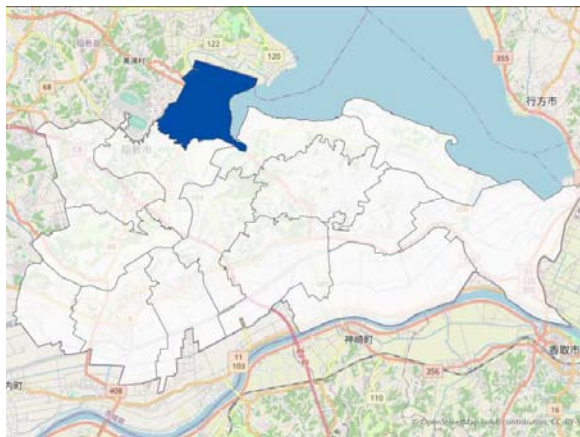
沿革

古くから江戸崎土岐氏や芦名盛重による占領を経て、江戸時代には徳川氏の領土となった。1889(明治22)年4月1日の町村制と同時に村となった際には、丘陵に阻まれた不便な土地だったためほかの村とは合併することなく、古来より醤油の産地として名を馳せた「鳩崎」の名を付した。

本村は半ば丘陵にして半平地に属していた。佐倉は地盤が高く、鳩崎と古渡信太は平坦で地味肥沃な地域だったが、霞ヶ浦の沿岸はすべて低地であった。村民はみな敦厚で素朴であり、多くは業務に打ち込み教育を重視していた。概ね農業を主としていたが、古渡と鳩崎では漁業も行われており、副業としては養蚕業が大いに発達した。

本村の交通は木原村から来て佐倉で分岐し、一方は江戸崎町へ、一方は古渡村、阿波村を経て千葉県神崎町に達する。反対に、木原村方面へ向かうと土浦街道へ通じる。

佐倉には役場、駐在所、尋常小学校があったほか、名勝佐倉砦跡も存在した。面積は3,600坪、周囲は土塁で囲まれ、高さは約4尺(約121cm)。往古志太義良(小太郎)が初めて城を築いた。

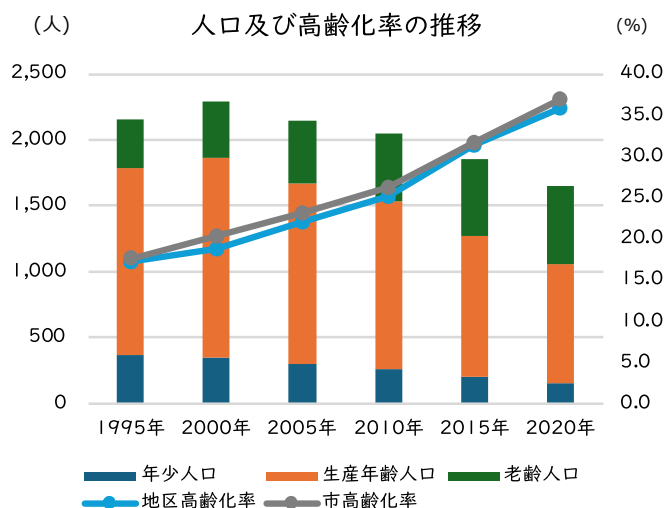


出典：いばらき新聞龍ヶ崎出張所「稲敷郡志」を基に作成

人口の変化

本地区の2020(令和2)年時点の人口は1,648人であり、稲敷市内15地区では3番目に人口が少ない。65歳以上の人口が占める割合(高齢化率)は35.92%になっており、市内15地区では6番目に低い数値である。

	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年
年少人口	367	344	301	261	200	157
生産年齢人口	1,416	1,518	1,371	1,273	1,071	899
高齢人口	372	430	473	516	582	592
地区高齢化率	17.26	18.76	22.05	25.17	31.41	35.92
市高齢化率	17.66	20.37	23.14	26.17	31.72	36.95

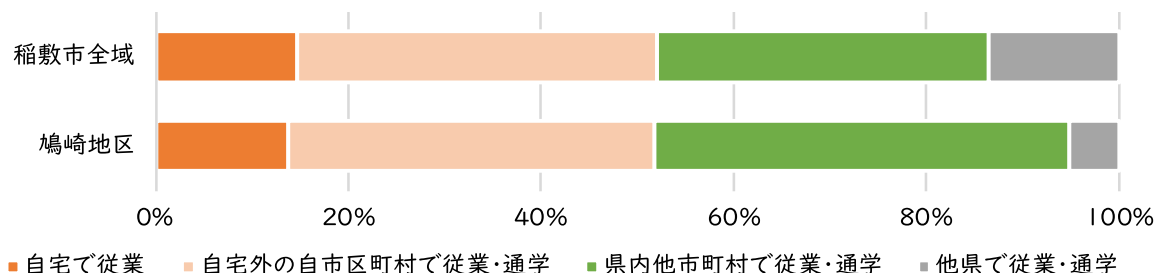


出典：総務省「国勢調査結果」(1995(平成7)年～2020(令和2)年)を基に作成

従業・通学地

約半数が自宅および市内で従業・通学している状況にあり、この割合は稲敷市全域とほぼ同じである。県内他市町村で従業・通学している割合は、市全域と比べて高い。

従業・通学地別人口割合



出典：総務省「令和2年国勢調査結果」を基に作成

年度・用途別新築状況と空き家状況

主に住宅系の新築が多く、新築数の推移は比較的安定している。

2022(令和4)年時点の空き家数は70件で、住宅数に対する空き家率は約9%である。

分類	H27	H28	H29	H30	R1	合計
年度合計	6	5	5	6	6	28
住宅系	3	5	4	6	5	23
商業系	2	0	1	0	1	4
工業系	0	0	0	0	0	0
その他	1	0	0	0	0	1

出典：稲敷市都市計画基礎調査(2022(令和4)年)を基に作成

空き家数
70件
住宅数
779件
空き家率
8.99%

出典：稲敷市空家実態調査(2023(令和5)年)を基に作成

産業分類別従業者割合と土地利用分類

本地区の居住者について産業分類別で見ると、「製造業」が最も多く全体の2割近くを占めている。

土地利用では田・畑が4割近くを占めるが、本地区内の農業従業者は市全体と比べてあまり高くない。

土地利用分類	面積(ha)	割合(%)
田	262.18	31.56
畑	50.59	6.09
山林	123.39	14.85
原野・荒野・牧野	83.55	10.06
水面	10.15	1.22
その他(海浜等)	0	0
住宅用地	56.81	6.84
併用住宅用地	6.8	0.82
商業用地	6.82	0.82
工業用地	18.85	2.27
運輸施設用地	0.56	0.07
農林漁業施設用地	1.17	0.14
公共用地	1.55	0.19
文教厚生用地	4.5	0.54
公園・緑地・公共空地等	1.4	0.17
ゴルフ場	111.94	13.48
太陽光発電施設	32.55	3.92
その他の空地	12.37	1.49
防衛用地	0	0
道路用地	45.46	5.47
鉄道用地	0	0
駐車場用地	0.08	0.01

出典：稲敷市都市計画基礎調査(2022(令和4)年)を基に作成



出典：総務省「令和2年国勢調査結果」を基に作成

備考) 本カルテは大字「鳩崎」「佐倉」「信太古渡」を鳩崎地区とし、地区の状況について、国勢調査結果や国土数値情報、都市計画基礎調査等のGISデータを用いて分析したものです。

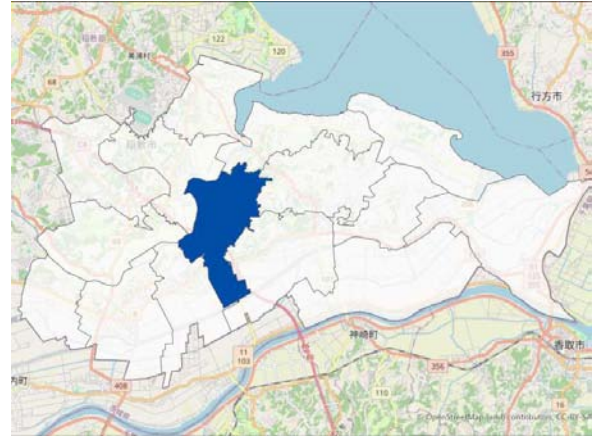
高田地区カルテ

沿革

昔は常陸國信太郡東條莊高田郷に属し、1878(明治11)年の郡区編制によって高田・椎塚を一聯合、駒塚・桑山を一聯合にして分割したが、1884(明治17)年に再び聯合して他の数村と一行政区となった。1889(明治22)年4月の市町村制実施によって合併し、全村の中では比較的大規模であった高田の名称が村名となった。

本村は東西一里十八町(約5.9km)、南北二十五町(約2.7km)で面積は約0.833方里(約13.3km²)であった。高田は椎塚の南北にあり小野川に臨み、椎塚は桑山の北かつ駒塚の東、駒塚は太田村の東方に位置していた。村の間は丘陵が起伏し畑地山林が多く、東西は新利根川と小野川の沿岸があるため水田が多い。水害の恐れはあるも、肥沃な土地であった。そのため村民は専業農家が一般的であった。

交通は江戸崎町より高田を経て阿波および古渡の2村に至るものがあつた。一つは高田から大須賀村に、一つは椎塚と駒塚を経て太田村に通ずるもので、道路による陸運も決して不便というわけではなかつた。しかし水運は霞ヶ浦古渡入に沿っていて便利であつた。

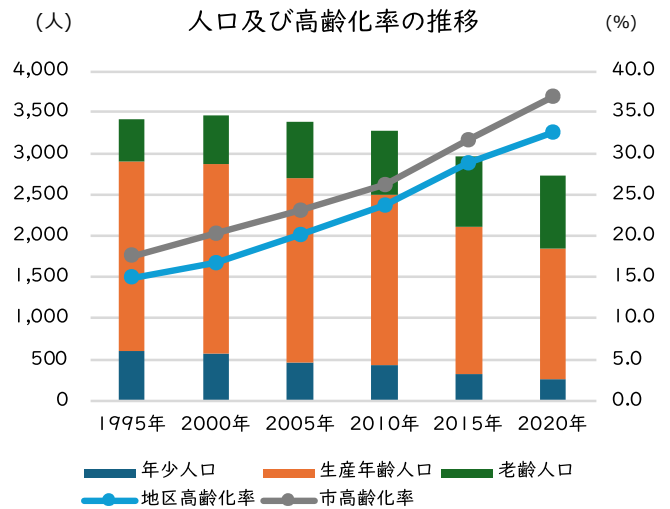


出典：いばらき新聞龍ヶ崎出張所「稲敷郡志」を基に作成

人口の変化

本地区の2020(令和2)年時点の人口は2,727人であり、稲敷市内15地区では6番目に人口が多い。65歳以上の人口が占める割合(高齢化率)は32.6%になっており、市内15地区では2番目に低い数値である。

	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年
年少人口	609	566	469	430	327	267
生産年齢人口	2,289	2,308	2,231	2,072	1,778	1,571
高齢人口	510	580	683	776	856	889
地区高齢化率	14.96	16.79	20.19	23.67	28.91	32.60
市高齢化率	17.66	20.37	23.14	26.17	31.72	36.95

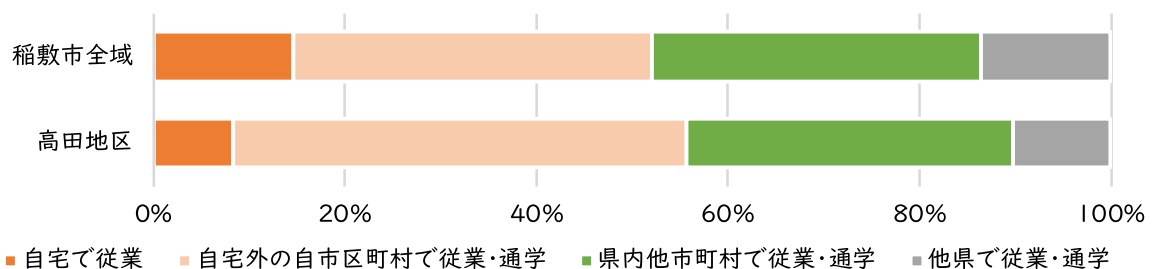


出典：総務省「国勢調査結果」(1995(平成7)年～2020(令和2)年)を基に作成

従業・通学地

半数以上が自宅または市内で従業・通学している状況にある。県内他市町村で従業・通学している割合は、市全域と比べて低い。

従業・通学地別人口割合



出典：総務省「令和2年国勢調査結果」を基に作成

年度・用途別新築状況と空き家状況

主に住宅系の新築が多く、新築数の推移は比較的安定している。

2022(令和4)年時点の空き家数は60件で、住宅数に対する空き家率は5%を下回っている。

分類	H27	H28	H29	H30	RI	合計
年度合計	10	5	7	5	6	33
住宅系	10	4	5	4	6	29
商業系	0	1	1	1	0	3
工業系	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	1	0	0	1

出典：稲敷市都市計画基礎調査(2022(令和4)年)を基に作成

空き家数	60件
住宅数	1,307件
空き家率	4.59%

出典：稲敷市空家実態調査(2023(令和5)年)を基に作成

産業分類別従業者割合と土地利用分類

本地区の居住者について産業分類別で見ると、「製造業」が最も多く全体の2割以上を占めている。

土地利用では田・畑が3割以上を占め、ゴルフ場の割合も比較的多い。

土地利用分類	面積(ha)	割合(%)
田	305.69	28.16
畑	68.47	6.31
山林	192.94	17.78
原野・荒野・牧野	106.41	9.8
水面	38.07	3.51
その他(海浜等)	0	0
住宅用地	81.4	7.5
併用住宅用地	4.88	0.45
商業用地	4.43	0.41
工業用地	25.8	2.38
運輸施設用地	4.48	0.41
農林漁業施設用地	1.49	0.14
公共用地	11.33	1.04
文教厚生用地	7.88	0.73
公園・緑地・公共空地等	12.33	1.14
ゴルフ場	108.46	9.99
太陽光発電施設	24.98	2.3
その他の空地	22.72	2.09
防衛用地	0	0
道路用地	61.32	5.65
鉄道用地	0	0
駐車場用地	2.32	0.21

出典：稲敷市都市計画基礎調査(2022(令和4)年)を基に作成

産業分類別従業者割合

(%)



出典：総務省「令和2年国勢調査結果」を基に作成

備考) 本カルテは大字「高田」「椎塚」「南ヶ丘」「駒塚」「桑山」「堀之内」を高田地区とし、地区の状況について、国勢調査結果や国土数値情報、都市計画基礎調査等のGISデータを用いて分析したものです。

根本地区カルテ

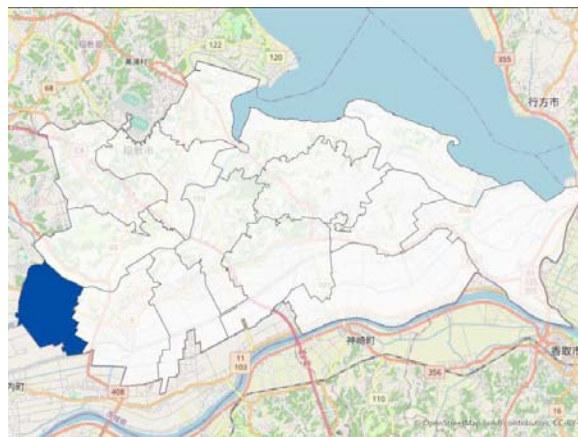
沿革

昔はどのような氏族のもとにあったかわからないが、1602(慶長7)年以降は高田卿東條の領地となり、江戸崎城主土岐氏が東條氏を追いこの地を領した後、佐竹氏の族芦名盛重の支配となった。その後は信太郡、河内郡となり、1868(明治元)年には上総宮谷県、1871(明治4)年には新治県、1875(明治8)年には茨城県管轄へと移り変わる。1889(明治22)年の市町村制実施とともに、上下根本が合併して根本村となった。

村の中央部には丘陵が東西に連なり、南北に分けられた南側を上根本、北側を下根本という。丘陵部の北部は大抵畑や山林となっていて、民家は南方の麓や東北の低地に立ち並んでいた。南北両部には水田が広がり、村民は農業を営む者が多かった。

本村は交通の便もよく、龍ヶ崎から江戸崎に至る県道を通じて人車や馬車の便があり、龍ヶ崎自動車会社が江戸崎・龍ヶ崎間を自動車で行っていた。

また、本村には往古から女化狐の言い伝えがある。根本村の貧家に生まれた忠五郎は白狐を助け、人間の娘に化けて会いに来た白狐と夫婦となり三人の子をもうけた。ところが母親の尻尾が出ているところを子供に見られ、正体が狐であることが露見してしまう。母親は、正体がわかった以上は子供と別れざるを得ないと、別れの一首「みどり子の母はと問わば女化の原に泣く泣く臥すと答へよ」を残して家を出ていってしまう。忠五郎は悲しみ嘆き、三児を連れてあとを追ったが、二度と姿を見ることはできなかった。

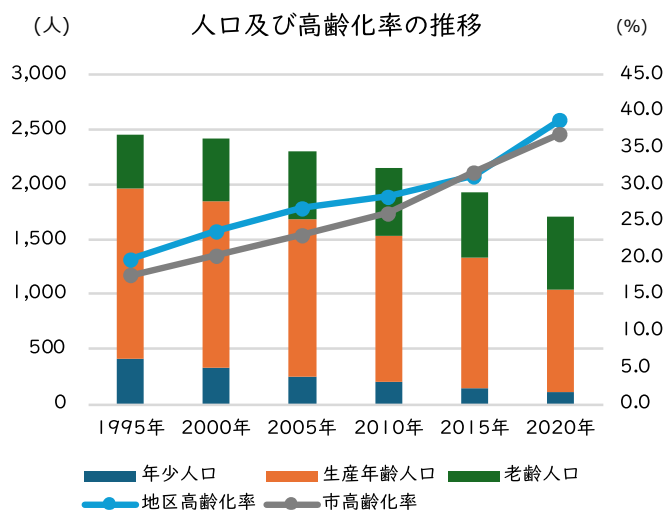


出典：いばらき新聞龍ヶ崎出張所「稲敷郡志」を基に作成

人口の変化

本地区の2020(令和2)年時点の人口は1,704人であり、稲敷市内15地区では5番目に人口が少ない。65歳以上の人口が占める割合(高齢化率)は38.91%になっており、市内15地区では7番目に高い数値である。

	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年
年少人口	412	333	253	201	138	113
生産年齢人口	1,551	1,508	1,432	1,334	1,191	928
高齢人口	487	570	615	610	601	663
地区高齢化率	19.88	23.64	26.74	28.44	31.14	38.91
市高齢化率	17.66	20.37	23.14	26.17	31.72	36.95

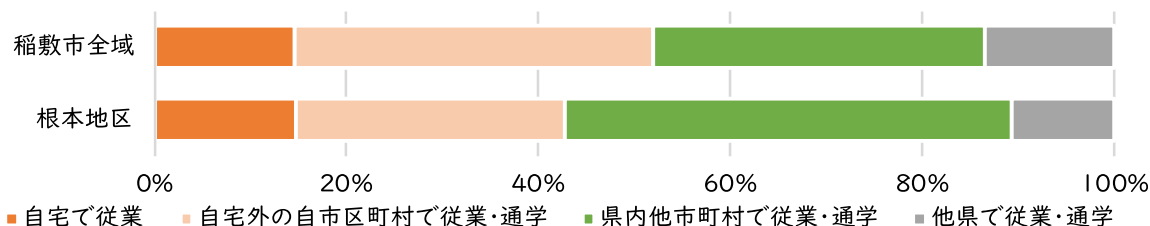


出典：総務省「国勢調査結果」(1995(平成7)年～2020(令和2)年)を基に作成

従業・通学地

半数以上が市外で従業・通学している状況にある。県内他市町村で従業・通学している割合は、市全域と比べて高い。

従業・通学地別人口割合



出典：総務省「令和2年国勢調査結果」を基に作成

年度・用途別新築状況と空き家状況

主に住宅系の新築が多い。新築数は2015(平成27)年がピークでその後は安定している。
2022(令和4)年時点の空き家数は51件で、住宅数に対する空き家率は7%である。

分類	H27	H28	H29	H30	R1	合計
年度合計	6	3	2	2	3	16
住宅系	5	2	2	2	3	14
商業系	0	0	0	0	0	0
工業系	1	0	0	0	0	1
その他	0	1	0	0	0	1

出典：稲敷市都市計画基礎調査(2022(令和4)年)を基に作成

空き家数	51件
住宅数	729件
空き家率	7.00%

出典：稲敷市空家実態調査(2023(令和5)年)を基に作成

産業分類別従業者割合と土地利用分類

本地区の居住者について産業分類別で見ると、「製造業」が最も多く全体の2割以上を占めている。
土地利用では田・畑が全体の6割以上を占め、本地区内の農業従業者も市全体と比べて高い。

土地利用分類	面積(ha)	割合(%)
田	429.46	59.92
畑	27.36	3.82
山林	81.55	11.38
原野・荒野・牧野	36.43	5.08
水面	19.88	2.77
その他(海浜等)	0	0
住宅用地	46.99	6.56
併用住宅用地	4.81	0.67
商業用地	1.14	0.16
工業用地	3.57	0.5
運輸施設用地	0.51	0.07
農林漁業施設用地	1.44	0.2
公共用地	0.76	0.11
文教厚生用地	5.97	0.83
公園・緑地・公共空地等	0.77	0.11
ゴルフ場	0	0
太陽光発電施設	10.78	1.5
その他の空地	8.69	1.21
防衛用地	0	0
道路用地	36.13	5.04
鉄道用地	0	0
駐車場用地	0.47	0.07

出典：稲敷市都市計画基礎調査(2022(令和4)年)を基に作成



出典：総務省「令和2年国勢調査結果」を基に作成

備考) 本カルテは大字「上根本」「下根本」を根本地区とし、地区の状況について、国勢調査結果や国土数値情報、都市計画基礎調査等のGISデータを用いて分析したものです。

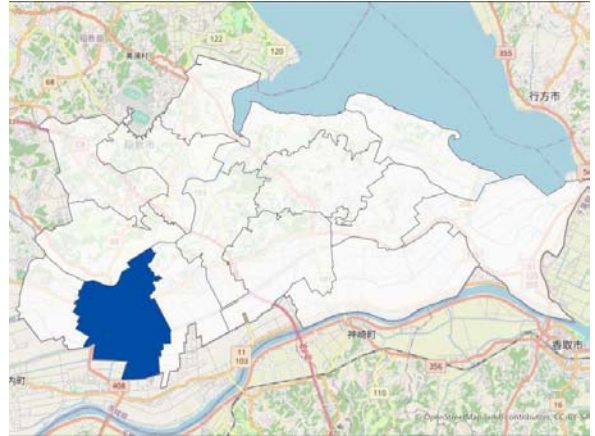
柴崎地区カルテ

沿革

大昔は常陸國信太郡東條莊に属していた。1878(明治11)年の郡区編制によって伊佐津新田、柴崎、戊渡新田の3村が聯合し、1889(明治22)年の市町村制実施の際に合併して柴崎村となった。

丘地によって南北に分かれた地形で、北部は小野川沿岸のため地形が狭長である。南部は新利根川中央の地を貫通しており、土地が肥沃であるため農業に適している。そのため村民は米や麦などの農業を営み、その他の業種に就く人はごくわずかであった。

交通機関は備わっておらず、村を通る東京街道、銚子街道、佐倉街道はいずれも田道で不完全であった。鉄道を利用するには龍ヶ崎町に出るか、千葉県滑川駅に行って成田線を利用する方法があり、龍ヶ崎町は三里(約12km)、滑川町には二里強(約10km)の距離であったが、利根川を渡るのは不便が多かったため、東京や水戸に出る者はたいてい龍ヶ崎町を経由していた。貨物の運輸はもっぱら荷馬車で、利根河畔長竿村の大字下町歩川岸に搬出し、そこから汽船、和船で輸送していた。

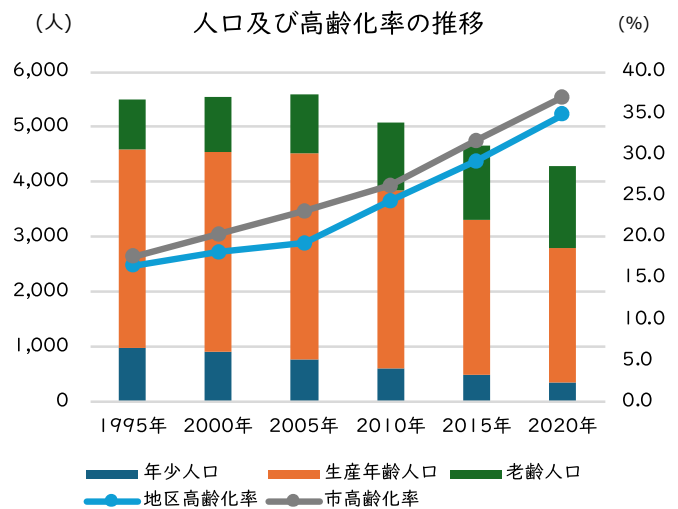


出典：いばらき新聞龍ヶ崎出張所「稲敷郡志」を基に作成

人口の変化

本地区の2020(令和2)年時点の人口は4,280人であり、稲敷市内15地区では3番目に人口が多い。65歳以上の人口が占める割合(高齢化率)は34.91%になっており、市内15地区では5番目に低い数値である。

	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年
年少人口	983	901	767	604	499	352
生産年齢人口	3,597	3,639	3,756	3,241	2,807	2,434
高齢人口	911	1,010	1,077	1,238	1,361	1,494
地区高齢化率	16.59	18.20	19.23	24.36	29.16	34.91
市高齢化率	17.66	20.37	23.14	26.17	31.72	36.95

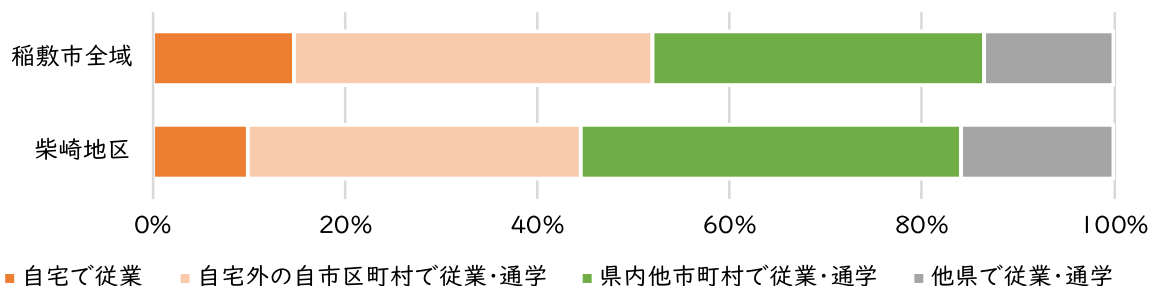


出典：総務省「国勢調査結果」(1995(平成7)年～2020(令和2)年)を基に作成

従業・通学地

半数以上が市外で従業・通学している状況にある。県内他市町村で従業・通学している割合は、市全域と比べて高い。

従業・通学地別人口割合



出典：総務省「令和2年国勢調査結果」を基に作成

年度・用途別新築状況と空き家状況

主に住宅系の新築が多く、特に2016(平成28)年の新築数は突出して多い。

2022(令和4)年時点の空き家数は105件で、住宅数に対する空き家率は6%程度である。

分類	H27	H28	H29	H30	R1	合計
年度合計	16	44	7	6	5	78
住宅系	15	43	5	4	4	71
商業系	1	0	1	0	1	3
工業系	0	1	1	0	0	2
その他	0	0	0	2	0	2

出典：稲敷市都市計画基礎調査(2022(令和4)年)を基に作成

空き家数	105件
住宅数	1,830件
空き家率	5.74%

出典：稲敷市空家実態調査(2023(令和5)年)を基に作成

産業分類別従業者割合と土地利用分類

本地区の居住者について産業分類別で見ると、「製造業」が最も多く全体の約3割を占めている。

土地利用では田・畑が全体の6割近くを占めるが、本地区内の農業従業者は5%未満となっている。

土地利用分類	面積(ha)	割合(%)
田	683.96	52.97
畑	62.52	4.84
山林	89.34	6.92
原野・荒野・牧野	79.03	6.12
水面	39.32	3.05
その他(海浜等)	0	0
住宅用地	111.27	8.62
併用住宅用地	13.9	1.08
商業用地	14.86	1.15
工業用地	27.72	2.15
運輸施設用地	5.15	0.4
農林漁業施設用地	0.73	0.06
公共用地	6.7	0.52
文教厚生用地	10	0.77
公園・緑地・公共空地等	17.73	1.37
ゴルフ場	0	0
太陽光発電施設	32.64	2.53
その他の空地	21.35	1.65
防衛用地	0	0
道路用地	73.42	5.69
鉄道用地	0	0
駐車場用地	1.56	0.12

出典：稲敷市都市計画基礎調査(2022(令和4)年)を基に作成

産業分類別従業者割合



出典：総務省「令和2年国勢調査結果」を基に作成

備考) 本カルテは大字「中山」「角崎」「狸穴」「柴崎」「伊佐津」「戊渡」「伊崎」を柴崎地区とし、地区の状況について、国勢調査結果や国土数値情報、都市計画基礎調査等のGISデータを用いて分析したものです。

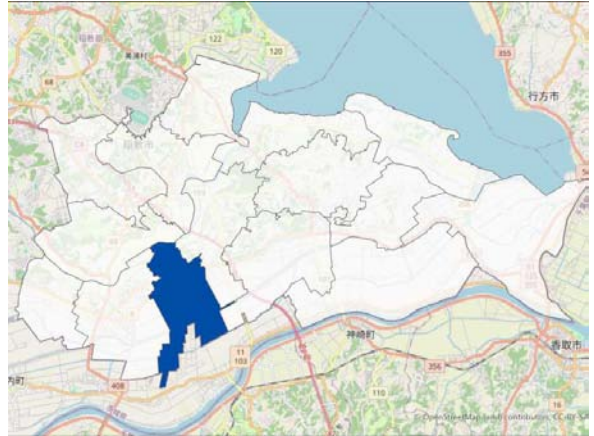
太田地区カルテ

沿革

本村の旧四ヶ村は、昔は常陸國信太郡東條莊小野郷に属し、1872(明治5)年の区戸長の制や1878(明治11)年の郡区編制では一行政区のままであった。1884(明治17)年の区域改正の際に他の村と聯合して行政区を全うし、1889(明治22)年4月の市町村制実施の際に太田村と改称した。

本村は、東北より西南の間三里(約12km)、また東南より西北に至る間のわずか二十町(約2.2km)に過ぎない区域で、面積は約0.59方里(約9.5km²)であった。小野寺は丘上であるのに対して太田、堀川は丘陵の麓下であり、地形は南方に延び中央に丘陵が起伏している。新利根川と小野川の両流域にまたがる区域には、平坦な美田が開けている。そのため村民は主に農業を営んでいた。商工従事者はごくわずかであったが、臼田醤油醸造場という醸造所があり、年間およそ500石分を醸造し東京の市場へ送っていた。

村内には里道が複数あり、新利根川に沿っていたため水陸ともに運輸の便がよかった。所管郡役所も、江戸崎までは一里(約4km)、龍ヶ崎町へは西に三里(約12km)ほどで利便性に富んでいた。

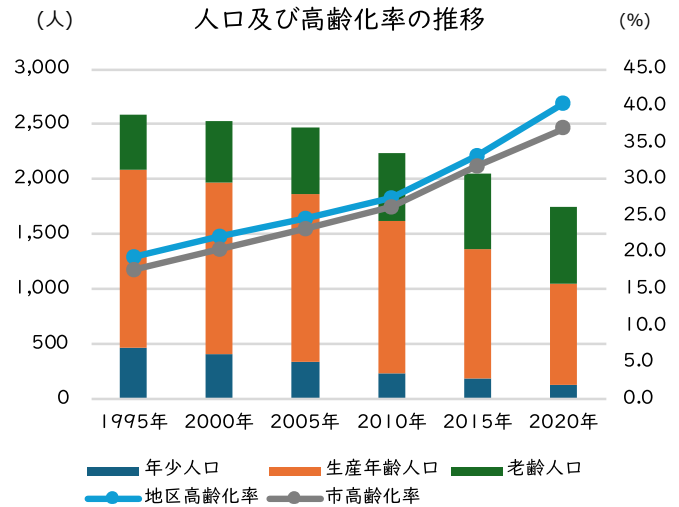


出典：いばらき新聞龍ヶ崎出張所「稲敷郡志」を基に作成

人口の変化

本地区の2020(令和2)年時点の人口は1,745人であり、稲敷市内15地区では6番目に人口が少ない。65歳以上の人口が占める割合(高齢化率)は40.34%になっており、市内15地区では3番目に高い数値である。

	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年
年少人口	459	401	339	226	181	131
生産年齢人口	1,628	1,570	1,517	1,393	1,184	910
高齢人口	502	560	607	610	680	704
地区高齢化率	19.39	22.13	24.64	27.37	33.25	40.34
市高齢化率	17.66	20.37	23.14	26.17	31.72	36.95



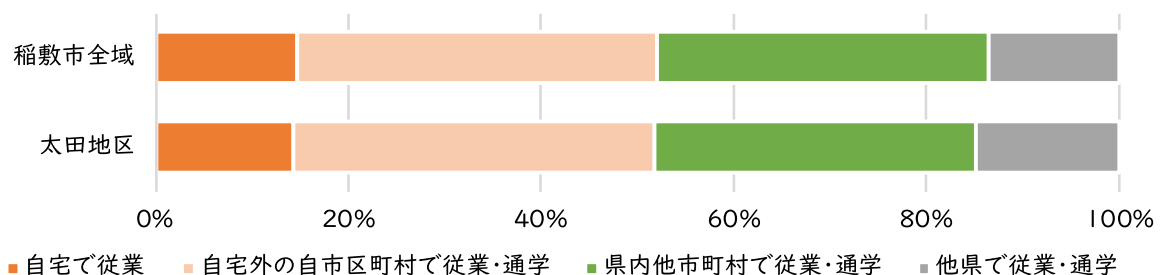
出典：総務省「国勢調査結果」(1995(平成7)年～2020(令和2)年)を基に作成

従業・通学地

約半数が市外で従業・通学している状況にある。

本地区と市全域を比べると、ほぼ同じ傾向にある。

従業・通学地別人口割合



出典：総務省「令和2年国勢調査結果」を基に作成

年度・用途別新築状況と空き家状況

主に住宅系の新築が多く、新築数は2017(平成29)年をピークに減少傾向にある。
2022(令和4)年時点の空き家数は50件で、住宅数に対する空き家率は6%ほどである。

分類	H27	H28	H29	H30	R1	合計
年度合計	3	4	8	7	4	26
住宅系	3	3	7	6	2	21
商業系	0	1	0	0	0	1
工業系	0	0	0	1	1	2
その他	0	0	1	0	1	2

出典：稲敷市都市計画基礎調査(2022(令和4)年)を基に作成

空き家数	50件
住宅数	817件
空き家率	6.12%

出典：稲敷市空家実態調査(2023(令和5)年)を基に作成

産業分類別従業者割合と土地利用分類

本地区の居住者について産業分類別で見ると、「製造業」が最も多く全体の4分の1以上を占めている。
土地利用では田・畑が全体の6割以上を占めるが、本地区内の農業従業者は市全体と比べて低い。

土地利用分類	面積(ha)	割合(%)
田	582.54	60.69
畑	29.34	3.06
山林	63.19	6.58
原野・荒野・牧野	73.04	7.61
水面	28.02	2.92
その他(海浜等)	0	0
住宅用地	57.25	5.96
併用住宅用地	5.81	0.61
商業用地	1.54	0.16
工業用地	27.32	2.85
運輸施設用地	2.07	0.22
農林漁業施設用地	0.61	0.06
公共用地	1.65	0.17
文教厚生用地	5.48	0.57
公園・緑地・公共空地等	6.7	0.7
ゴルフ場	0	0
太陽光発電施設	12	1.25
その他の空地	16.38	1.71
防衛用地	0	0
道路用地	45.96	4.79
鉄道用地	0	0
駐車場用地	0.93	0.1

出典：稲敷市都市計画基礎調査(2022(令和4)年)を基に作成

産業分類別従業者割合



出典：総務省「令和2年国勢調査結果」を基に作成

備考) 本カルテは大字「寺内」「小野」「下太田」「堀川」「南太田」を太田地区とし、地区の状況について、国勢調査結果や国土数値情報、都市計画基礎調査等のGISデータを用いて分析したものです。

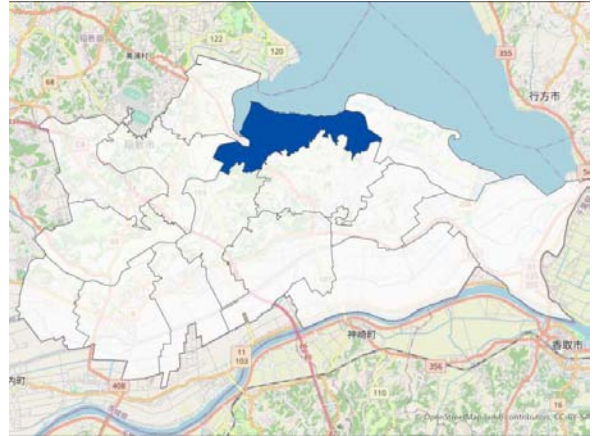
古渡地区カルテ

沿革

延喜年間(901年~923年)に古渡、飯出、三次、馬渡が乗濱卿に、羽生、堀ノ内、柏木は高田卿に属す。天慶長元(1028~1037年)の際に後三年の役後鎌倉灌五郎景政の領地となったあと、佐竹に属し信太庄、東條の庄を経て、1594(文禄3)年に信太郡となる。明治維新後、1871(明治4)年に宮谷県、1872(明治5)年に新治県の管轄を経て茨城県の管轄となり、1884(明治17)年に10の村を聯合し役場を古渡に置いた。1889(明治22)年4月の市町村制実施に際し、合併して古渡村となった。

本村は東西に一里十八町(約5.9km)、南北に十七町(約1.9km)にして面積は0.53方里(約8.5km²)であった。東、北、西の三方は水に恵まれ、南に高く北に低い。住民の多くは農業を営み、商業、工業に従事する者もいた。

本村は土浦銚子間の県道に古渡橋が架かっており柏木まで通じていたが、1916(大正5)年度の予算決議の県会において廃道となってしまった。里道は古渡の下宿より三次馬渡を経て浮島に至るもの、高田江戸崎に至るもの、古渡から大坪に至るものがあった。

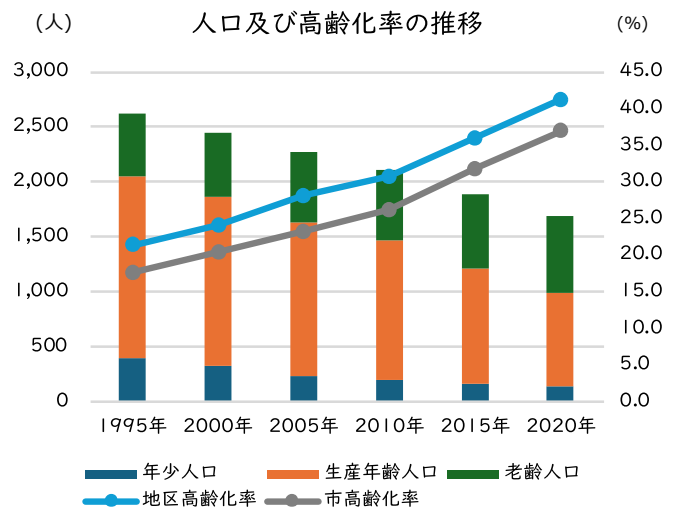


出典：いばらき新聞龍ヶ崎出張所「稲敷郡志」を基に作成

人口の変化

本地区の2020(令和2)年時点の人口は1,689人であり、稲敷市内15地区では4番目に人口が少ない。65歳以上の人口が占める割合(高齢化率)は41.27%になっており、市内15地区では2番目に高い数値である。

	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年
年少人口	400	329	238	196	159	142
生産年齢人口	1,654	1,532	1,396	1,266	1,052	850
高齢人口	561	590	637	648	679	697
地区高齢化率	21.45	24.07	28.05	30.71	35.93	41.27
市高齢化率	17.66	20.37	23.14	26.17	31.72	36.95

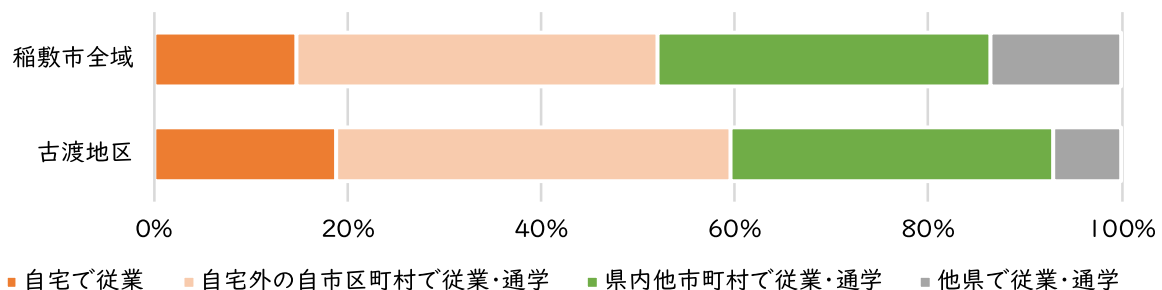


出典：総務省「国勢調査結果」(1995(平成7)年~2020(令和2)年)を基に作成

従業・通学地

約6割が自宅および市内で従業・通学している状況にある。他県で従業・通学している割合は、市全域と比べて低い。

従業・通学地別人口割合



出典：総務省「令和2年国勢調査結果」を基に作成

年度・用途別新築状況と空き家状況

主に住宅系の新築が多く、新築数の推移は比較的安定している。

2022(令和4)年時点の空き家数は63件で、住宅数に対する空き家率は6%ほどである。

分類	H27	H28	H29	H30	RI	合計
年度合計	7	4	7	6	4	28
住宅系	4	4	6	6	4	24
商業系	2	0	0	0	0	2
工業系	1	0	1	0	0	2
その他	0	0	0	0	0	0

出典：稲敷市都市計画基礎調査(2022(令和4)年)を基に作成

空き家数	63件
住宅数	994件
空き家率	6.34%

出典：稲敷市空家実態調査(2023(令和5)年)を基に作成

産業分類別従業者割合と土地利用分類

本地区の居住者について産業分類別で見ると、「製造業」が最も多く全体の約2割を占めている。

土地利用では田・畑が全体の半分近くを占め、本地区内の農業従業者も市全体と比べて高い。

土地利用分類	面積(ha)	割合(%)
田	375.63	40.28
畑	40.85	4.38
山林	115.55	12.39
原野・荒野・牧野	77.78	8.34
水面	40.09	4.3
その他(海浜等)	0	0
住宅用地	63.28	6.79
併用住宅用地	10.7	1.15
商業用地	2.63	0.28
工業用地	2.33	0.25
運輸施設用地	1.05	0.11
農林漁業施設用地	0.8	0.09
公共用地	2.41	0.26
文教厚生用地	13.49	1.45
公園・緑地・公共空地等	15.88	1.7
ゴルフ場	99.86	10.71
太陽光発電施設	6.13	0.66
その他の空地	14.19	1.52
防衛用地	0	0
道路用地	49.43	5.3
鉄道用地	0	0
駐車場用地	0.37	0.04

出典：稲敷市都市計画基礎調査(2022(令和4)年)を基に作成



出典：総務省「令和2年国勢調査結果」を基に作成

備考) 本カルテは大字「柏木」「羽生」「古渡」「岡飯出」「三次」「上馬渡」「下馬渡」「柏木古渡」「飯出」を古渡地区とし、地区の状況について、国勢調査結果や国土数値情報、都市計画基礎調査等のGISデータを用いて分析したものです。

浮島地区カルテ

沿革

本村は浪逆浦と霞ヶ浦の中間にあり、舟を浮かべたような形に似ていた。中世は木曾氏の領分となり、文禄慶長(1592~1615年)の頃は河内郡信太庄に属し、元禄(1688~1704年)のころは猪子、小栗両宮三給の地頭に分属し、天明文化(1751~1789年)の際は天領となった。1868(明治元)年に宮谷県、1871(明治4)年に新治県の所轄を経て1875(明治8)年に茨城県に属し、1878(明治11)年の郡区編制の際に信太河内郡役所の所属となった。1889(明治22)年の市町村制実施の際に大行政として浮島村自治圏となった。



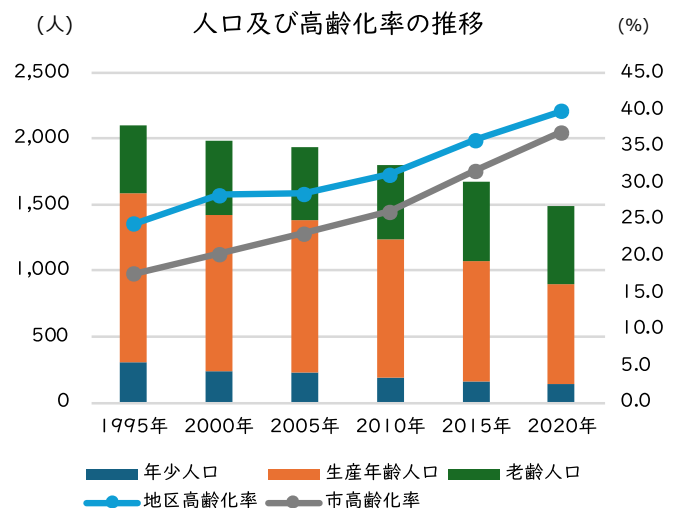
本村は東西一里十八町(約5.9km)、南北十二町(約1.3km)であり、村民は一般的に農業を営んでいた。四方を水に囲まれているため、水運の便が非常によかった。

出典：いばらき新聞龍ヶ崎出張所「稲敷郡志」を基に作成

人口の変化

本地区の2020(令和2)年時点の人口は1,491人であり、稲敷市内15地区では2番目に人口が少ない。65歳以上の人口が占める割合(高齢化率)は39.84%になっており、市内15地区では4番目に高い数値である。

	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年
年少人口	306	233	227	190	160	139
生産年齢人口	1,280	1,187	1,156	1,047	911	758
高齢人口	515	561	555	560	598	594
地区高齢化率	24.51	28.32	28.64	31.16	35.83	39.84
市高齢化率	17.66	20.37	23.14	26.17	31.72	36.95

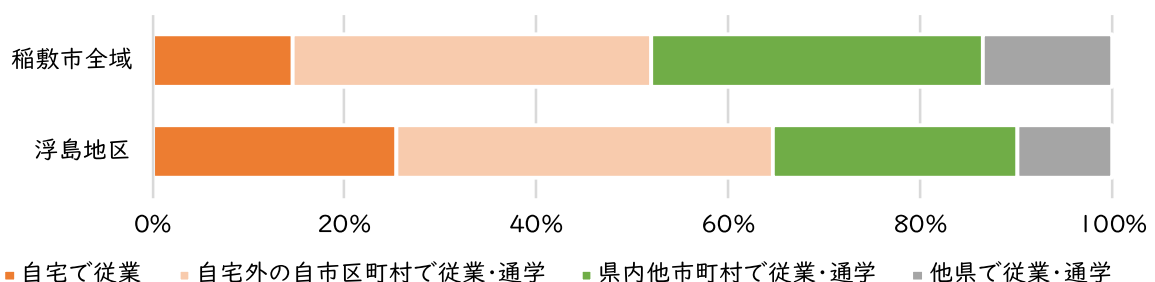


出典：総務省「国勢調査結果」(1995(平成7)年~2020(令和2)年)を基に作成

従業・通学地

6割以上が自宅および市内で従業・通学している状況にある。他県で従業・通学している割合は、市全域と比べて低い。

従業・通学地別人口割合



出典：総務省「令和2年国勢調査結果」を基に作成

年度・用途別新築状況と空き家状況

主に住宅系の新築が多く、新築数の推移は比較的安定している。

2022(令和4)年時点の空き家数は41件で、住宅数に対する空き家率は5%を下回っている。

分類	H27	H28	H29	H30	R1	合計
年度合計	2	4	3	6	3	18
住宅系	2	3	2	4	2	13
商業系	0	0	0	0	0	0
工業系	0	0	0	0	0	0
その他	0	1	1	2	1	5

出典：稲敷市都市計画基礎調査(2022(令和4)年)を基に作成

空き家数	41件
住宅数	826件
空き家率	4.96%

出典：稲敷市空家実態調査(2023(令和5)年)を基に作成

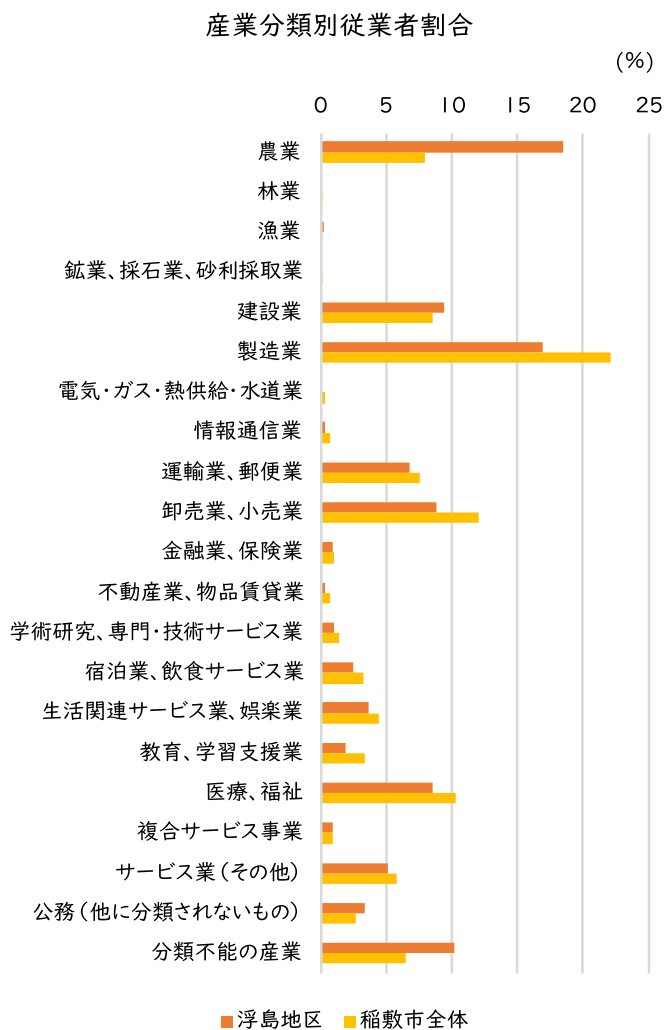
産業分類別従業者割合と土地利用分類

本地区の居住者について産業分類別で見ると、「農業」が最も多く全体の2割近くを占めている。

土地利用では田・畑が全体の半分近くを占め、本地区内の農業従業者も市全体と比べて非常に高い。

土地利用分類	面積(ha)	割合(%)
田	410.3	38.25
畑	67.71	6.31
山林	73.51	6.85
原野・荒野・牧野	90.66	8.45
水面	56.19	5.24
その他(海浜等)	0	0
住宅用地	52	4.85
併用住宅用地	5.29	0.49
商業用地	2	0.19
工業用地	7.01	0.65
運輸施設用地	0.91	0.08
農林漁業施設用地	1.06	0.1
公共用地	2.46	0.23
文教厚生用地	6.07	0.57
公園・緑地・公共空地等	55.99	5.22
ゴルフ場	0	0
太陽光発電施設	6.69	0.62
その他の空地	173.77	16.2
防衛用地	0	0
道路用地	60.49	5.64
鉄道用地	0	0
駐車場用地	0.44	0.04

出典：稲敷市都市計画基礎調査(2022(令和4)年)を基に作成



出典：総務省「令和2年国勢調査結果」を基に作成

備考) 本カルテは大字「西の洲」「浮島」を浮島地区とし、地区の状況について、国勢調査結果や国土数値情報、都市計画基礎調査等のGISデータを用いて分析したものです。

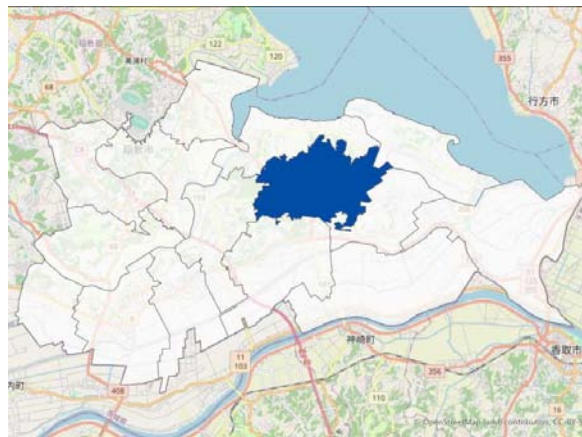
阿波地区カルテ

沿革

昔は常陸國信太郡東條莊高田郷に属し、1872(明治5)年の区戸長の制で一小区内となった。1878(明治11)年の郡区編制に際し三聯合に分属、1884(明治17)年の聯合区域改正の際に聯合して一行政区となるが、1889(明治22)年4月の市町村制実施の際に合併して阿波村となった。阿波は元禄年間に安場又崎安波と称し、徳川時代には旗下大久保権右衛門、戸田平左衛門、加藤勘左衛門、松平采女正四氏の領地であったが、1871(明治4)年に宮谷県香取出張所の所管となったあと、新治県の管轄を経て1875(明治8)年に茨城県の管轄となった。

本村は東西約一里五町(約4.5km)、南北三十五町(約3.8km)であり、村民は農業を主として営んでいた。

県道は土浦から銚子に通ずる銚子街道が通っており、古渡村から神阿波を経て大須賀村に通ずる道もあったが、1915(大正4)年度の県会決議で内鳩崎～古渡線が廃止となり、鳩崎佐倉を経て江戸崎に至り小野川を渡って高田、神宮寺に連絡する方針に変更された。水路は大宇須賀津から行方郡や千葉県佐原への便船があり、帝都へ貨物を輸送する際も水路に頼っていた。

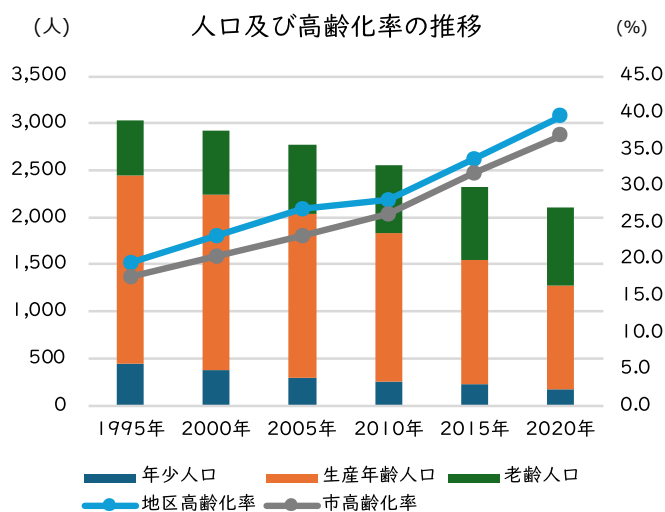


出典：いばらき新聞龍ヶ崎出張所「稲敷郡志」を基に作成

人口の変化

本地区の2020(令和2)年時点の人口は2,105人であり、稲敷市内15地区では8番目に人口が多い。65歳以上の人口が占める割合(高齢化率)は39.62%になっており、市内15地区では5番目に高い数値である。

	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年
年少人口	448	376	290	255	232	180
生産年齢人口	1,992	1,865	1,741	1,575	1,308	1,091
高齢人口	593	675	744	717	781	834
地区高齢化率	19.55	23.15	26.81	28.15	33.65	39.62
市高齢化率	17.66	20.37	23.14	26.17	31.72	36.95

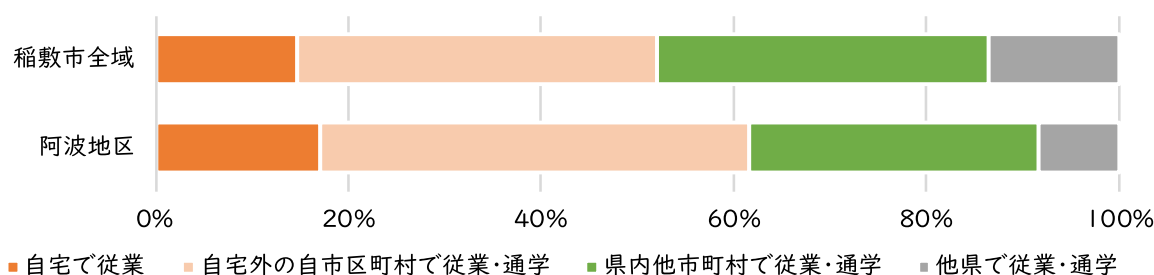


出典：総務省「国勢調査結果」(1995(平成7)年～2020(令和2)年)を基に作成

従業・通学地

6割以上が自宅および市内で従業・通学している状況にある。県内他市町村で従業・通学している割合は、市全域と比べて低い。

従業・通学地別人口割合



出典：総務省「令和2年国勢調査結果」を基に作成

年度・用途別新築状況と空き家状況

主に住宅系の新築が多い。新築数は2018年(平成30年)がピークで、翌年は減少した。
2022(令和4)年時点の空き家数は80件で、住宅数に対する空き家率は8%近くとなっている。

分類	H27	H28	H29	H30	R1	合計
年度合計	1	4	7	7	3	22
住宅系	1	3	6	4	1	15
商業系	0	1	1	2	0	4
工業系	0	0	0	1	1	2
その他	0	0	0	0	1	1

出典：稲敷市都市計画基礎調査(2022(令和4)年)を基に作成

空き家数	80件
住宅数	1,046件
空き家率	7.65%

出典：稲敷市空家実態調査(2023(令和5)年)を基に作成

産業分類別従業者割合と土地利用分類

本地区の居住者について産業分類別で見ると、「製造業」が最も多く全体の2割以上を占めている。
土地利用ではゴルフ場の割合が目立ち、市内15地区では最も高い数値である。

土地利用分類	面積(ha)	割合(%)
田	309.44	23.66
畑	55.77	4.27
山林	218.27	16.69
原野・荒野・牧野	146.23	11.18
水面	9.38	0.72
その他(海浜等)	0	0
住宅用地	69.07	5.28
併用住宅用地	9.76	0.75
商業用地	8.48	0.65
工業用地	47.94	3.67
運輸施設用地	1.22	0.09
農林漁業施設用地	1.02	0.08
公共用地	9.46	0.72
文教厚生用地	11.74	0.9
公園・緑地・公共空地等	3.64	0.28
ゴルフ場	302.12	23.11
太陽光発電施設	28.62	2.19
その他の空地	16.4	1.25
防衛用地	0	0
道路用地	58.11	4.44
鉄道用地	0	0
駐車場用地	0.92	0.07

出典：稲敷市都市計画基礎調査(2022(令和4)年)を基に作成



出典：総務省「令和2年国勢調査結果」を基に作成

備考) 本カルテは大字「阿波」「神宮寺」「四箇」「須賀津」「甘田」「南山来」を阿波地区とし、地区の状況について、国勢調査結果や国土数値情報、都市計画基礎調査等のGISデータを用いて分析したものです。

十余島地区カルテ

沿革

本村は郡の東部、下利根川と新利根川の間に介在し、余ッ谷、清久、脇川、橋向、神崎、押砂、曲淵、四ッ谷、六角、結佐、下須田、阿波崎、手賀沼新田、伊佐部、佐原組新田、甘田、高丸、幸田の大字からなる。

1881(明治14)年12月の町村聯合の戸長を置いたあと、1884(明治17)年にはさらに区域を広めて官選戸長を置き、付近の13の村を合わせて聯合役場を六角に置いた。1889(明治22)年の市町村制実施に際し、上須田は分かれてそのほかは本新島に合併して、十余島村が誕生した。1899(明治32)年の県域変更の際に、茨城県に移り本郡に編入された神崎本宿以下五大字の本村に接する部分を吸収して今日に及ぶ。

本村は東西二里十三町(約9.4km)、南北二十町(約2.2km)、面積0.77方里(約12.32km²)であった。地形は東西に長く南北に短く、低湿な土地に溝渠地域を形成するための水路が縦横に通じている。西北側は新利根川の堤防から本新島界に至り大須賀、伊崎、本新島の一部を合わせて八千石耕地と称し、幾多の閘門により排水灌漑の要となっていた。

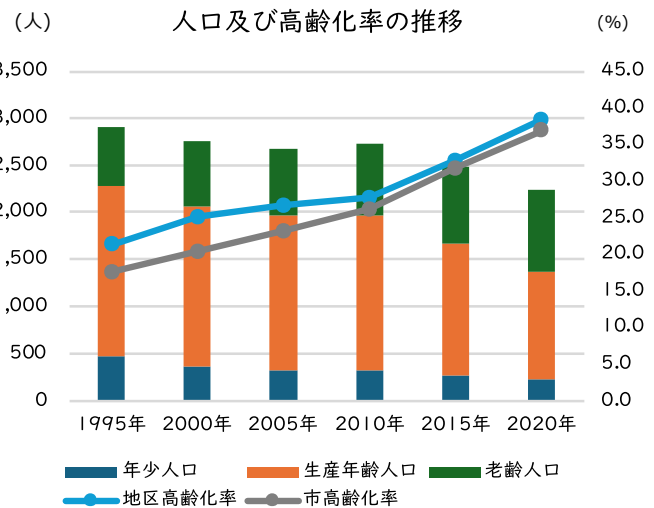


出典：いばらき新聞龍ヶ崎出張所「稲敷郡志」を基に作成

人口の変化

本地区の2020(令和2)年時点の人口は2,231人であり、稲敷市内15地区では7番目に人口が多い。65歳以上の人口が占める割合(高齢化率)は38.41%になっており、市内15地区では8番目に高い数値である。

	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年
年少人口	474	363	316	326	268	230
生産年齢人口	1,807	1,695	1,648	1,643	1,404	1,144
高齢人口	620	691	713	753	816	857
地区高齢化率	21.37	25.14	26.63	27.66	32.80	38.41
市高齢化率	17.66	20.37	23.14	26.17	31.72	36.95

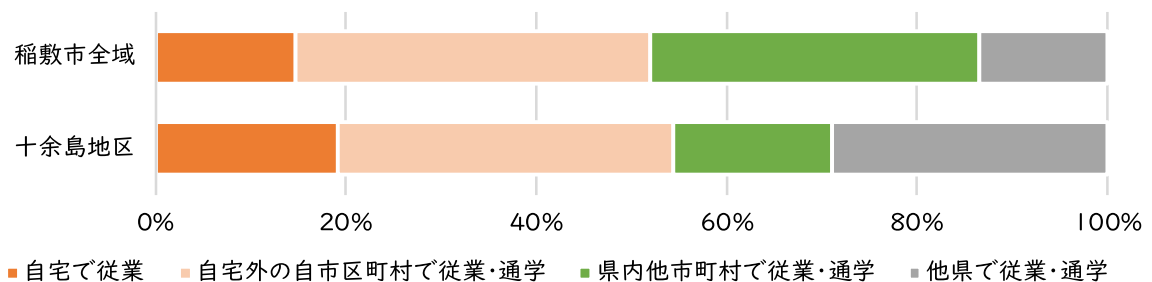


出典：総務省「国勢調査結果」(1995(平成7)年～2020(令和2)年)を基に作成

従業・通学地

半数以上が自宅および市内で従業・通学している状況にある。県内他市町村で従業・通学している割合は、市全域と比べて半分ほどである。

従業・通学地別人口割合



出典：総務省「令和2年国勢調査結果」を基に作成

年度・用途別新築状況と空き家状況

主に住宅系の新築が多く、新築数の推移は比較的安定している。

2022(令和4)年時点の空き家数は36件で、住宅数に対する空き家率は5%を下回っている。

分類	H27	H28	H29	H30	R1	合計
年度合計	4	5	8	6	8	31
住宅系	4	5	7	5	7	28
商業系	0	0	0	0	0	0
工業系	0	0	1	0	0	1
その他	0	0	0	1	1	2

出典：稲敷市都市計画基礎調査(2022(令和4)年)を基に作成

空き家数	36件
住宅数	966件
空き家率	3.73%

出典：稲敷市空家実態調査(2023(令和5)年)を基に作成

産業分類別従業者割合と土地利用分類

本地区の居住者について産業分類別で見ると、「製造業」が最も多く全体の約2割を占めている。

土地利用では田・畑が全体の約4分の3を占め、農業従業者も市全体に比べて高い割合となっている。

土地利用分類	面積(ha)	割合(%)
田	1361.72	71.67
畑	62.53	3.29
山林	0.13	0.01
原野・荒野・牧野	79.57	4.19
水面	136.49	7.18
その他(海浜等)	0	0
住宅用地	74.06	3.9
併用住宅用地	5.59	0.29
商業用地	4.18	0.22
工業用地	10.65	0.56
運輸施設用地	1.41	0.07
農林漁業施設用地	6.55	0.34
公共用地	6.38	0.34
文教厚生用地	19.15	1.01
公園・緑地・公共空地等	4.89	0.26
ゴルフ場	0	0
太陽光発電施設	13.28	0.7
その他の空地	10.35	0.54
防衛用地	0	0
道路用地	102.8	5.41
鉄道用地	0	0
駐車場用地	0.21	0.01

出典：稲敷市都市計画基礎調査(2022(令和4)年)を基に作成

産業分類別従業者割合



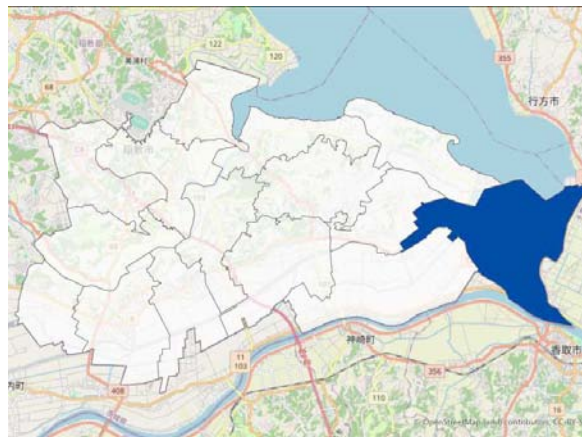
出典：総務省「令和2年国勢調査結果」を基に作成

備考) 本カルテは大字「押砂」「結佐」「佐原組新田」「清久島」「手賀組新田」「橋向」「八千石」「曲淵」「四ッ谷」「余津谷」「六角」を十余島地区とし、地区の状況について、国勢調査結果や国土数値情報、都市計画基礎調査等のGISデータを用いて分析したものです。

本新島地区カルテ

沿革

本村は昔の香取海榎浦の跡や、本名新島という香取浦の洋中など、数百年のうちに土砂が沈積して陸地をなしたところである。1590(天正18)年に水陸田を開き始め上の島と称したあと、現在の八筋川を相次いで開拓した。1591(天正19)年には現在の西代ノ内、1624(寛永元)年には大島、1628(寛永5)年には境島の班田を開拓したことで十六島となった。明治維新後は宮谷県に属したあと新治県に管せられ、1875(明治8)年に千葉県に属した。1889(明治22)年に市町村制を実施するにあたり、上須田、上ノ島、川尻、野間、谷原、石納、飯島、西代の7区を1区として本新島村となった。



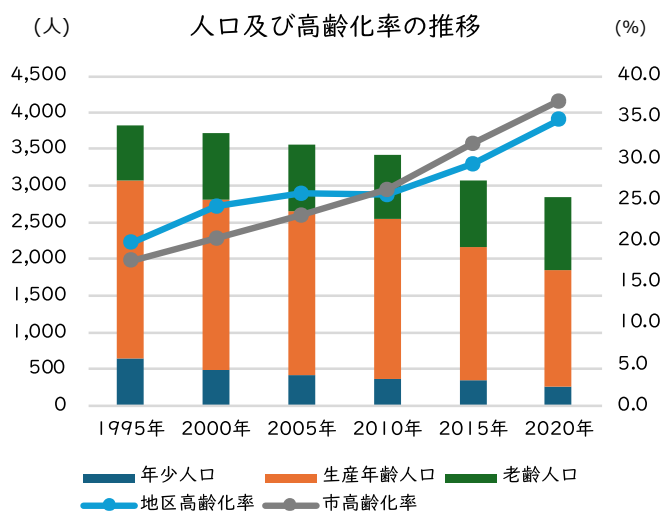
本村は東北より西南に延び、三角形のような形になっている。上島は十余島村に連続する土地であり、本村中の最優地であった。石納、西代がこれに次ぐ。本村の土地は低漥で、水田は遠く開けて地味肥沃であるが、ひとたび天の神様の怒りに触れると、命の綱の稲作は一夜にして水底に葬られ、1年365日の苦労が水の泡になってしまうほどの悲劇が起きていた。

出典：いばらき新聞龍ヶ崎出張所「稲敷郡志」を基に作成

人口の変化

本地区の2020(令和2)年時点の人口は2,840人であり、稲敷市内15地区では5番目に人口が多い。65歳以上の人口が占める割合(高齢化率)は34.72%になっており、市内15地区では4番目に低い数値である。

	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年
年少人口	645	485	419	359	338	264
生産年齢人口	2,417	2,330	2,228	2,187	1,827	1,590
高齢人口	757	899	916	872	901	986
地区高齢化率	19.82	24.21	25.71	25.51	29.39	34.72
市高齢化率	17.66	20.37	23.14	26.17	31.72	36.95

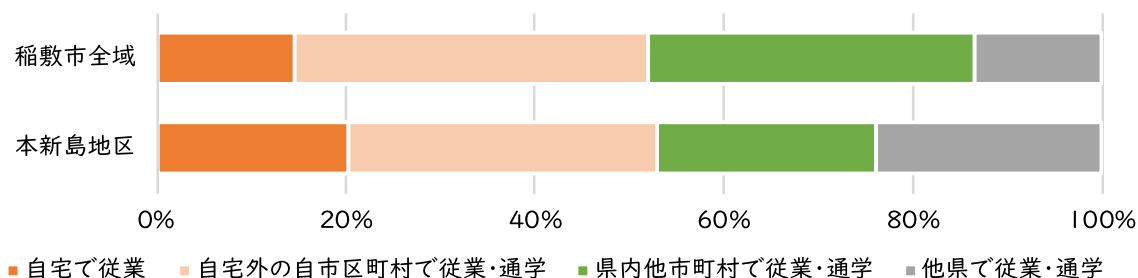


出典：総務省「国勢調査結果」(1995(平成7)年～2020(令和2)年)を基に作成

従業・通学地

約半数が自宅および市内で従業・通学している状況にある。県内他市町村で従業・通学している割合は、市全域と比べて低い。

従業・通学地別人口割合



出典：総務省「令和2年国勢調査結果」を基に作成

年度・用途別新築状況と空き家状況

主に住宅系や工業系の新築が多く、新築数は15地区内でも比較的多い。

2022(令和4)年時点の空き家数は51件で、住宅数に対する空き家率は5%を下回っている。

分類	H27	H28	H29	H30	R1	合計
年度合計	14	13	17	15	15	74
住宅系	10	8	13	14	10	55
商業系	1	1	1	1	1	5
工業系	2	4	1	0	3	10
その他	1	0	2	0	1	4

出典：稲敷市都市計画基礎調査(2022(令和4)年)を基に作成

空き家数	51件
住宅数	1,234件
空き家率	4.13%

出典：稲敷市空家実態調査(2023(令和5)年)を基に作成

産業分類別従業者割合と土地利用分類

本地区の居住者について産業分類別で見ると、「製造業」が最も多く全体の2割近くを占めている。

土地利用では田・畑が全体の6割以上を占めているほか、水面の割合が15地区で最も高くなっている。

土地利用分類	面積(ha)	割合(%)
田	1221.48	60.74
畑	79.85	3.97
山林	0.6	0.03
原野・荒野・牧野	143.42	7.13
水面	166.8	8.29
その他(海浜等)	0	0
住宅用地	101.85	5.06
併用住宅用地	19.64	0.98
商業用地	36.6	1.82
工業用地	28.57	1.42
運輸施設用地	2.83	0.14
農林漁業施設用地	15.09	0.75
公共用地	8	0.4
文教厚生用地	7.62	0.38
公園・緑地・公共空地等	3.28	0.16
ゴルフ場	0	0
太陽光発電施設	15.38	0.76
その他の空地	22	1.09
防衛用地	0	0
道路用地	137.13	6.82
鉄道用地	0	0
駐車場用地	0.72	0.04

出典：稲敷市都市計画基礎調査(2022(令和4)年)を基に作成

産業分類別従業者割合



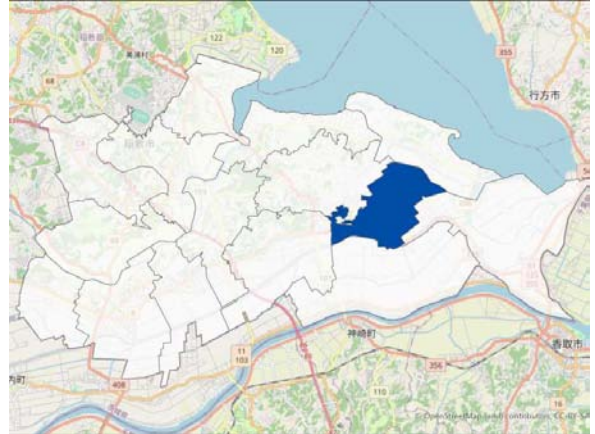
出典：総務省「令和2年国勢調査結果」を基に作成

備考) 本カルテは大字「大島」「上須田」「石納」「境島」「佐原下手」「西代」「三島」「本新」「八筋川」「上之島」を本新島地区とし、地区の状況について、国勢調査結果や国土数値情報、都市計画基礎調査等のGISデータを用いて分析したものです。

伊崎地区カルテ

沿革

昔は信太郡東條莊高田郷に属し、文禄検地(1592～1596年)の際に河内郡となる。建武(1334～1338年)中、北畠氏が城を築いて支配したが、佐竹氏に攻められ、その配下が支配した。天正(1573～1592年)中に土岐氏、佐竹氏の領地となったあとは徳川氏の直轄となり、1868(明治元)年に宮谷県、1872(明治5)年に新治県、1875(明治8)年に茨城県に属した。1879(明治12)年の郡区改正に際し、信太河内郡役所管内の伊佐部、釜井、甘田が聯合し、それとは別に阿波崎、下須田が聯合する。1884(明治17)年には聯合区を改正し、1889(明治22)年の市町村制実施に際して一行政区域となり、伊崎村が誕生した。



本村は東西に約一里六町(約4.6km)、南北に一里二町(約4.2km)あり、地形は平坦である。新利根川は村の南部を東に流れて霞ヶ浦に注ぐ。土地に占める割合が高いのは水田で、次に原野畑、山林は少ない。山林は高地、畑・宅地は中地、田と原野は低地に位置する。豪雨の際は新利根川と霞ヶ浦の水嵩が一気に増すため、被害を防ぐために堤防を整備したが、小貝川が決壊した時はあたり一面泥海になる。

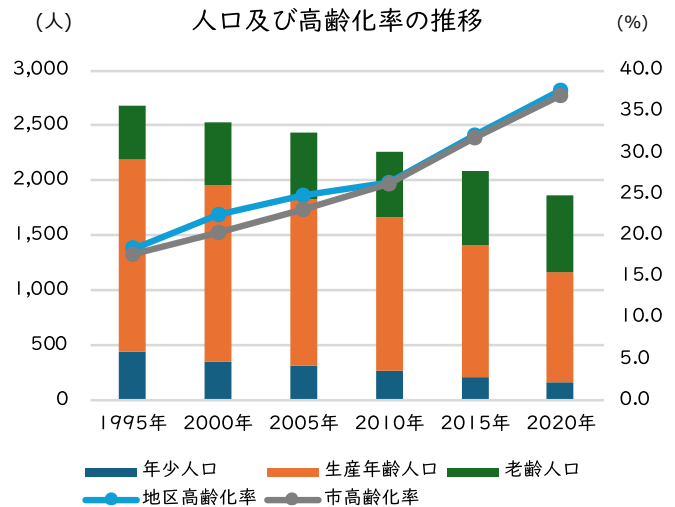
本村は国道も県道もなく、本新村から大須賀、阿波村に通ずる里道と、浮島から十余島に通ずる里道があるのみである。

出典: いばらき新聞龍ヶ崎出張所「稲敷郡志」を基に作成

人口の変化

本地区の2020(令和2)年時点の人口は1,861人であり、稲敷市内15地区では7番目に人口が少ない。65歳以上の人口が占める割合(高齢化率)は37.61%になっており、市内15地区では7番目に低い数値である。

	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年
年少人口	445	342	308	270	207	159
生産年齢人口	1,738	1,617	1,521	1,395	1,202	1,002
高齢人口	492	569	602	596	667	700
地区高齢化率	18.39	22.51	24.76	26.36	32.13	37.61
市高齢化率	17.66	20.37	23.14	26.17	31.72	36.95

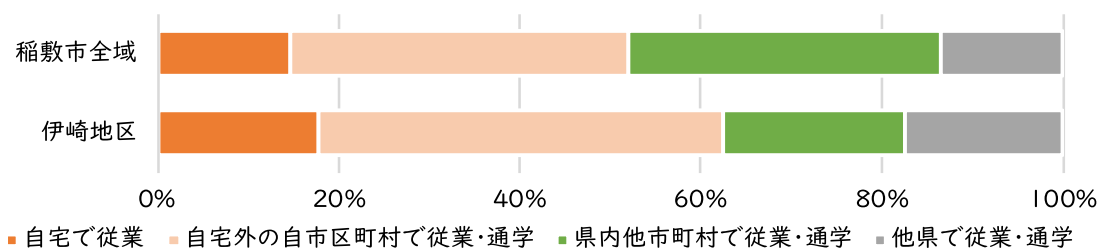


出典: 総務省「国勢調査結果」(1995(平成7)年～2020(令和2)年)を基に作成

従業・通学地

半数以上が自宅および市内で従業・通学している状況にある。県内他市町村で従業・通学している割合は、市全域と比べて低い。

従業・通学地別人口割合



出典: 総務省「令和2年国勢調査結果」を基に作成

年度・用途別新築状況と空き家状況

主に住宅系の新築が多く、新築数の推移は比較的安定している。

2022(令和4)年時点の空き家数は33件で、住宅数に対する空き家率は5%を下回っている。

分類	H27	H28	H29	H30	RI	合計
年度合計	4	4	5	4	8	25
住宅系	2	3	4	2	8	19
商業系	1	0	1	1	0	3
工業系	0	1	0	1	0	2
その他	1	0	0	0	0	1

出典：稲敷市都市計画基礎調査(2022(令和4)年)を基に作成

空き家数	33件
住宅数	848件
空き家率	3.89%

出典：稲敷市空家実態調査(2023(令和5)年)を基に作成

産業分類別従業者割合と土地利用分類

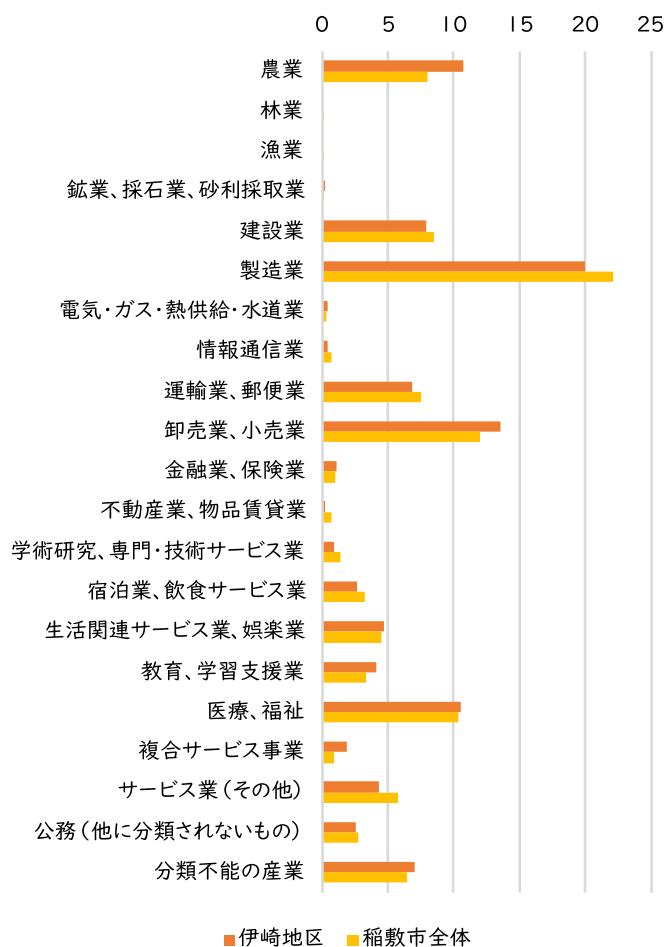
本地区の居住者について産業分類別で見ると、「製造業」が最も多く全体の約2割を占めている。

土地利用では田・畑が全体の半数以上を占め、ほかにもゴルフ場や荒野・原野・牧野の割合が目立つ。

土地利用分類	面積(ha)	割合(%)
田	445.63	52.83
畑	28.54	3.38
山林	14.54	1.72
原野・荒野・牧野	78.04	9.25
水面	23.16	2.75
その他(海浜等)	0	0
住宅用地	56.54	6.7
併用住宅用地	7.45	0.88
商業用地	5.07	0.6
工業用地	25.12	2.98
運輸施設用地	3.28	0.39
農林漁業施設用地	1.27	0.15
公共用地	3.19	0.38
文教厚生用地	5.88	0.7
公園・緑地・公共空地等	1.88	0.22
ゴルフ場	88.62	10.51
太陽光発電施設	3.21	0.38
その他の空地	5.43	0.64
防衛用地	0	0
道路用地	46.3	5.49
鉄道用地	0	0
駐車場用地	0.44	0.05

出典：稲敷市都市計画基礎調査(2022(令和4)年)を基に作成

産業分類別従業者割合



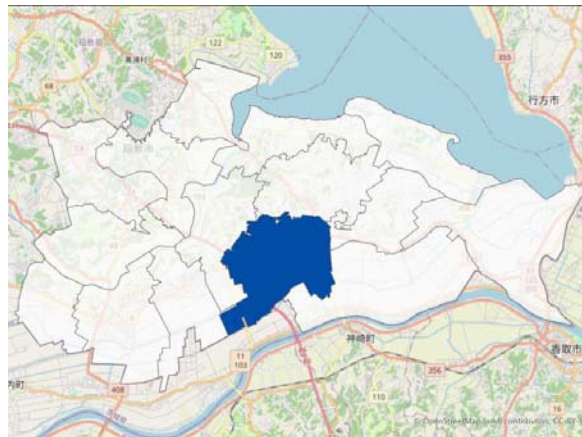
出典：総務省「令和2年国勢調査結果」を基に作成

備考) 本カルテは大字「阿波崎」「伊佐部」「釜井」「下須田」を伊崎地区とし、地区の状況について、国勢調査結果や国土数値情報、都市計画基礎調査等のGISデータを用いて分析したものです。

大須賀地区カルテ

沿革

旧村幸田、脇川、中島、福田、清水、町田、市崎、大沼は大昔、常陸國信太郡東條の荘高田郷に属していた。1872(明治5)年の区戸長の制が出ると、旧幸田、脇川、中島の3村は他の諸村とともに同じ小区に属し、その他は一小区となった。1878(明治11)年の郡区編制によって幸田、脇川、中島、福田を一聯合、清水、町田、市崎、大沼を一聯合とし、1889(明治22)年4月の市町村制実施の際に合併して大須賀村となった。



本村は東北より西南に長く七十二町(約7.9km)、西南より東南は五十三町(約5.8km)あった。大沼は丘地で、清水、町田、市崎、福田、幸田は丘地の麓に介在し、中島、脇川は新利根堤防内外の低地であった。北方は丘陵が起伏する一方、南方は平坦で田園が開けており、肥沃な土地で農業に適していた。そのため村民は主に農業を営み、副業として漁業などを行う者もいた。

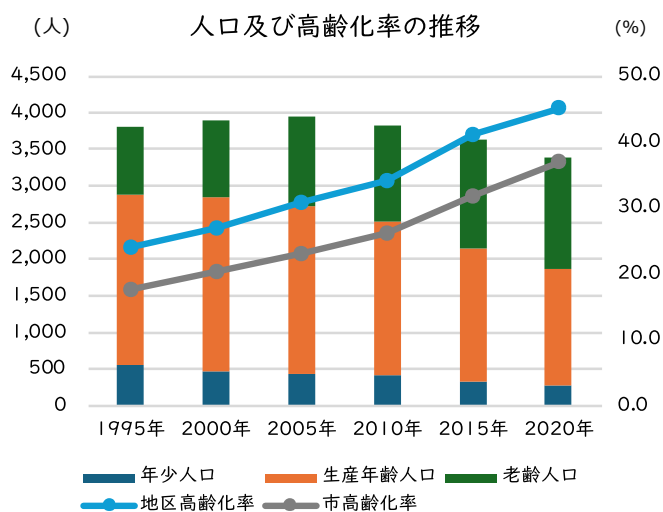
交通面では、大字幸田から阿波村に通ずる県道、伊崎村から大字幸田、福田、市崎、町田および清水を経て高田村に通ずる里道と、幸田から十余島村に通ずる県道が中心であった。水路は新利根川と霞ヶ浦に連絡できるため、交通運輸ともに利便性が高かった。

出典：いばらき新聞龍ヶ崎出張所「稲敷郡志」を基に作成

人口の変化

本地区の2020(令和2)年時点の人口は3,395人であり、稲敷市内15地区では4番目に人口が多い。65歳以上の人口が占める割合(高齢化率)は45.13%になっており、市内15地区では最も高い数値である。

	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年
年少人口	560	475	431	408	333	281
生産年齢人口	2,324	2,366	2,293	2,104	1,805	1,582
高齢人口	917	1,047	1,216	1,305	1,494	1,532
地区高齢化率	24.13	26.93	30.86	34.19	41.13	45.13
市高齢化率	17.66	20.37	23.14	26.17	31.72	36.95

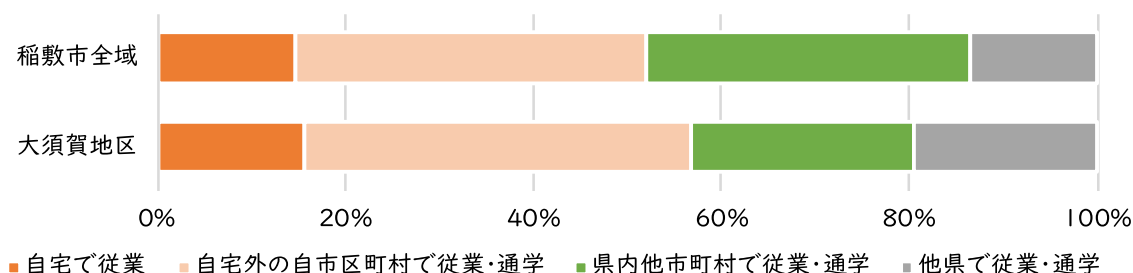


出典：総務省「国勢調査結果」(1995(平成7)年～2020(令和2)年)を基に作成

従業・通学地

半数以上が自宅および市内で従業・通学している状況にある。県内他市町村で従業・通学している割合は、市全域と比べて低い。

従業・通学地別人口割合



出典：総務省「令和2年国勢調査結果」を基に作成

年度・用途別新築状況と空き家状況

主に住宅系の新築が多く、2017(平成29)年以降は工業系の数も増えている。

2022(令和4)年時点の空き家数は56件で、住宅数に対する空き家率は5%を下回っている。

分類	H27	H28	H29	H30	R1	合計
年度合計	14	3	9	13	10	49
住宅系	12	3	6	12	8	41
商業系	0	0	0	0	0	0
工業系	0	0	2	1	2	5
その他	2	0	1	0	0	3

出典：稲敷市都市計画基礎調査(2022(令和4)年)を基に作成

空き家数	56件
住宅数	1,349件
空き家率	4.15%

出典：稲敷市空家実態調査(2023(令和5)年)を基に作成

産業分類別従業者割合と土地利用分類

本地区の居住者について産業分類別で見ると、「製造業」が最も多く全体の約2割を占めている。

土地利用では田・畑が全体の半分以上を占め、農業従業者も市全体に比べて高い割合となっている。

土地利用分類	面積(ha)	割合(%)
田	782.74	53.63
畑	64.01	4.39
山林	159.15	10.9
原野・荒野・牧野	101.01	6.92
水面	39.13	2.68
その他(海浜等)	0	0
住宅用地	88.62	6.07
併用住宅用地	6.47	0.44
商業用地	3.72	0.25
工業用地	22.18	1.52
運輸施設用地	3.67	0.25
農林漁業施設用地	8.67	0.59
公共用地	2.84	0.19
文教厚生用地	14.11	0.97
公園・緑地・公共空地等	4.95	0.34
ゴルフ場	49.34	3.38
太陽光発電施設	9.63	0.66
その他の空地	13.66	0.94
防衛用地	0	0
道路用地	84.73	5.81
鉄道用地	0	0
駐車場用地	0.87	0.06

出典：稲敷市都市計画基礎調査(2022(令和4)年)を基に作成

産業分類別従業者割合



出典：総務省「令和2年国勢調査結果」を基に作成

備考) 本カルテは大字「光葉」「幸田」「中島」「東大沼」「福田」「脇川」「市崎」「清水」「町田」を大須賀地区とし、地区の状況について、国勢調査結果や国土数値情報、都市計画基礎調査等のGISデータを用いて分析したものです。